

平成30年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

<総括表>

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します



益田市政策企画局人口拡大課

(1) 平成 30 年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 5
(3) 吉田地区	P. 6～P. 8
(4) 高津地区	育児休業中
(5) 安田地区	P. 9～P. 12
(6) 鎌手地区	P. 13～P. 16
(7) 種地区	不在
(8) 北仙道地区	P. 17～P. 20
(9) 豊川地区	P. 21～P. 24
(10) 真砂地区	育児休業中
(11) 西益田地区	P. 25～P. 26
(12) 二条地区	P. 27～P. 30
(13) 美濃地区	P. 31～P. 32
(14) 小野地区	P. 33～P. 36
(15) 中西地区	P. 37～P. 40
(16) 東仙道地区	P. 41～P. 44
(17) 都茂地区	P. 45～P. 46
(18) 二川地区	P. 47～P. 49
(19) 匹見上地区	P. 50～P. 53
(20) 匹見下地区	P. 54～P. 57
(21) 道川地区	P. 58～P. 61
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 62～P. 63

【地域魅力化応援隊員とは】

総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区振興センターに配置しています。

平成 30 年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田地区振興センター	益田地区	藤井 洋司	平成 30 年 6 月
2	吉田地区振興センター	吉田地区	石田 令子	平成 30 年 4 月
3	高津地区振興センター	高津地区	梅津 梨紗	平成 29 年 4 月
4	安田地区振興センター	安田地区	尼子 達夫	平成 27 年 5 月
5	鎌手地区振興センター	鎌手地区	横田 裕見子	平成 30 年 4 月
6	種地区振興センター	種地区		
7	北仙道地区振興センター	北仙道地区	大久保 佳美	平成 29 年 4 月
8	豊川地区振興センター	豊川地区	岡崎 友臣	平成 26 年 4 月
9	真砂地区振興センター	真砂地区	岸本 真樹	平成 27 年 8 月
10	西益田地区振興センター	西益田地区	栗山 三男	平成 26 年 12 月
11	二条地区振興センター	二条地区	堀江 宗仁	平成 29 年 4 月
12	美濃地区振興センター	美濃地区	白神 光人	平成 30 年 4 月
13	小野地区振興センター	小野地区	宮内 英之	平成 30 年 4 月
14	中西地区振興センター	中西地区	吉賀 和之	平成 27 年 5 月
15	東仙道地区振興センター	東仙道地区	青戸 美奈子	平成 28 年 4 月
16	都茂地区振興センター	都茂地区	大谷 昭次	平成 28 年 4 月
17	二川地区振興センター	二川地区	小原 静伍	平成 26 年 4 月
18	匹見上地区振興センター	匹見上地区	大畑 馨	平成 26 年 5 月
19	匹見下地区振興センター	匹見下地区	小島 雄二	平成 27 年 10 月
20	道川地区振興センター	道川地区	高田 純子	平成 26 年 4 月

計 19 名

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田地区振興センター

2. 配置年月

平成 30 年 6 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

○地域自治組織設立のための支援

- ・ 6 月 18 日 第 1 回益田地区地域自治組織設立委員会
(組織改編、設立準備会から設立委員会に変更)
新委員と役員体制について審議
3 部会の編成について承認
本年度の事業計画、予算について審議
- ・ 7 月 18 日 益田地区地域自治組織設立委員会役員会
今年度の事業計画修正について承諾 (全体会議で指摘された部分の変更)
自治組織の組織・体制について審議
地区説明会のブロック分け及び各自治会との日程調整について審議
- ・ 7 月 28 日 各自治会の会長が出席する「生き生き益田の会」総会の場で地区
説明会の開催についての説明と協力依頼を行った。
- ・ 7 月末 「益田地区地域自治組織設立委員会だより」発行 (各戸配布)
「地域自治組織」とは、設立までの流れ、まちづくりプランについて
- ・ 9 月 10 日 益田地区地域自治組織設立委員会役員会
地区説明会計画 (案) について審議 (会場、回数、担当者を決定した。)
- ・ 10 月 3 日 益田地区地域自治組織設立委員会役員会
地区説明会の内容について役員の事前研修を行った
全体会議の開催日を決定
- ・ 10 月 15 日 第 2 回益田地区地域自治組織設立委員会
地区説明会の開催計画について承認
設立後の部会の具体的取組みについてグループワーク
- ・ 地区説明会実施 (日にちと自治会)、役員・事務局を 3 班に分けて各 4 回担当



11/22 (木) 堀川自治会、上市自治会、折戸自治会、本町一丁目自治会
11/24 (土) 沖田自治会

- 11/26 (月) 東町自治会、片山自治会、門前自治会、春日自治会
- 11/27 (火) 昭和自治会
- 11/30 (金) 旭町自治会、旭ヶ丘自治会
- 12/1 (土) 染羽自治会
- 12/2 (日) 徳原自治会、稲積自治会、土井自治会
- 12/8 (土) 山ノ平自治会
- 12/9 (日) 古川自治会、本町自治会、幸町自治会、大下市自治会
- 12/14 (金) 三宅自治会
- 12/15 (土) 城山自治会、住吉自治会、水源地自治会、山根自治会、清水自治会
- 12/16 (日) 青葉台自治会
- ・ 12月19日 益田地区地域自治組織設立委員会役員会
地区説明会の実績報告
地区説明会での質問に対する回答文書について検討
設立に向けての課題・準備について整理
「益田地区地域自治組織設立委員会だより」の発行について内容の検討
- ・ 1月17日 第3回益田地区地域自治組織設立委員会
地区説明会の実績報告と感想及び意見交換を行った
自治組織設立までの計画について検討
自治会への回答文書(案)について検討
今後の予定について、会議予定の確認
- ・ 1月下旬「益田地区地域自治組織設立委員会だより」発行(各戸配布)
地区説明会の様子、視察研修に行った地区の取り組み紹介
- ・ 1月28日 益田地区地域自治組織設立委員会役員会
自治組織設立について審議
自治会への回答文書の内容について審議
組織(規約(案)、人材確保)について審議
- ・ 2月初旬 地区説明会での質問、意見について回答文書配布(各戸配布)
- ・ 部会
 - 2月12日 ふれあい部会
 - 2月14日 歴史部会、安心安全部会
 事業計画(設立後すぐに取組める事)について話し合った。

②活動の成果及び効果

本年度は自治組織設立手順のステップ3からステップ4に移行するための課題をクリアする事でした。最大の活動は12箇所で行った地区説明会であったが、「自治組織」の認知度や関心が低く参加者がとても少なかった。説明会の参加者は、各自治会で中心的役割を担っている高齢の方が殆どで、次世代の担い手や10年後・20年後の「まちづくり」を担う若い世代を十分に取込む事はできなかった。

「自治組織」という言葉から「自治会」や「自治会連合会」と同じか、それに代わる組織を連想され「まちづくり」の組織であるとイメージしてもらえなかったのも一因であったと思う。今日までの数年間、委員会を設立して準備を進めて来た過程で委員だけでなく、一人でも多くの地区住民を巻き込みながら進めていけば良か

ったのではないかと感じた。しかし、地区説明会の場で皆さんから日々の困り事や意見を直接聞く事ができたのは有意義であったと思う。自治組織の認知度アップのため、公民館だよりでの情報発信以外に委員会独自で各戸配布の広報を3回行った。

次年度の早い時期に設立するのが目標で、活動を進めて行く中で当初の事業計画より会議の回数が増えて役員及び委員の皆さんに負担をかけてしまった。地区内で様々な活動をしている人達なので、日程調整にも日数が必要で、ゆっくりとしか進めなかった。

4. 残された課題と今後の提案

比較的コンパクトなエリアに6,000人近くが居住している地区で、益田川を挟んで益田東中学校側の通称「川北」は、以前は殆ど農地であった所で比較的新しい居住エリアである。対する益田小学校側の城下町であった「川南」は、昭和58年の水害で場所によっては2階の床より上まで浸水する大きな被害を受け住宅や商店が減少しているエリアである。交通手段、買い物、医療など自治会により状況も異なる。昭和58年の水害以後は幸いに大きな災害に見舞われる事なく、30年以上が経過し当時を知らない世代も増え、地縁が薄れつつある中で「いざという時」に助け合える関係や仕組みが構築可能か不安である。買い物弱者、交通弱者対策も必要となっているのが現状である。市内といえ自家用車がなければ生活に支障をきたす事には変わりはない。各自治会とも悩みを抱えているものの、少世帯の自治会や高齢化が進んだ自治会以外は切迫した課題がなく誰かがやってくれるだろうと他人任せで関心が薄いのが実態である。

今年度までは、委員会の中で設立に向けての検討・準備という形で住民には見えない活動が主であった。地区説明会を行った事により活動に期待や注目する住民も出てくるので小さな事から見える活動を行い理解者、協力者を少しずつ増やしていく努力が必要である。活動の「見える化」には、情報発信が重要となって来る。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

何もわからないまま年度途中からの活動で、何をどうして良いか分からず不安なスタートだった。前任者がステップ3までを完了しており、ステップ4への移行を進める活動が残された状況であった。準備委員会で何年も掛けて描いてきた設計図を基に実際に形にして行く、「夢を現実に変える準備の年」であると考え活動したが、ゆっくりとしか進めなかった。組織の設立も継続も鍵となるのは「人」だと思うが6,000人近い人が生活しており、どこにどんな能力・ノウハウ・志を持った人がいるのか分からないため、人材の確保が最重要であると考え。切迫した問題を抱えている自治会以外は将来的に「まちづくり」が行き詰る認識が薄い。自治組織が出来て、実際の活動で小さな事でも結果を示す「見える化」ができれば「まちづくり」に関心を持つ住民も増えて少しずつでも若い世代を巻き込む事も可能になるのではないかと考える。次年度が本当の意味での始まりになる、地区内の課題をどこまで吸い上げる事が出来るのか、理解者・協力者を何人増やす事ができるのか、色んな世代の意見を取込めるのか。人口が多いからこそ、最初は共通する「小さな事からコツコツと」が大切ではないだろうか。課題解決の実績、仕組みができれば人数の多さが力となりスピーディーに進めるのではないかと期待する。

吉田地区

地域魅力化応援隊員 氏名 石田 令子

平成30年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
吉田地区振興センター
2. 配置年月
平成30年4月1日から（1年目）
3. 活動の概要
① 活動の内容

事業名	内容	実施日程	実施体制
地域自治組織設立支援事業	<p>「吉田の未来を考える会」において下記事項を協議、検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域自治組織設立について ・防災の取組みを検討・協議 ・自主防災組織設立のサポートについて  <p>「吉田の未来を考える会 防災検討会」において吉田地区の防災を集中的に検討。</p> <p>「吉田地区防災協議会」において地域防災力向上のために必要な活動について協議、実施する。</p>  <p>自主防災組織設立支援として「防災研修会」を実施</p>	<p>4月19日＝第1回会議 6月29日＝第2回会議 8月24日＝第3回会議 9月18日＝防災検討会 10月11日＝防災検討会 10月25日＝第4回会議 11月27日＝防災検討会 12月8日＝防災協議会 12月13日＝第5回会議 1月16日＝防災検討会 2月5日＝第6回会議 3月14日＝第7回会議 3月16日＝防災協議会</p>	<p>【協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田の未来を考える会 ・地区内自治会 ・人口拡大課 ・危機管理課 ・センター職員 ・公民館職員 ・NPO法人防災支援センター

上記活動の日程・協議議題の内容等の調整および決定、協議事項の議事録作成等を行いました。

② 活動の成果及び効果

「地域自治組織設立支援事業」の活動の成果および効果

本年度「吉田の未来を考える会」準備会は、その名称から「準備会」をはずし、「吉田の未来を考える会」としてスタートしました。活動としては、吉田地区全体の共通課題である地域防災力向上について集中的に協議しました。

まず、吉田地区内39自治会での防災に関する取り組みについて、それぞれの自治会長に聞き取り調査をしました。結果、自主防災組織を設立し積極的に防災活動を行っている自治会と、防災に関しては話し合いすらされていない自治会があり、自治会によって温度差が大きいことが分かりました。防災に関する活動をしていない自治会のほとんどが、高齢化によりその他のことも含めて活動が活発ではないことも分かりました。

昨年来の努力により本年度は5自治会が自主防災組織を立ち上げ、その他にも検討を始めた自治会があるので、約半数の自治会が何らかの防災活動を行っています。昨今、地震や台風による自然災害が多数発生しているため、住民の災害に対する警戒感が高まっています。「吉田の未来を考える会」では、地域防災力を早急に向上させるために「考える会」の3名の委員が「防災検討委員」として集中して協議を重ねることとしました。

そのようななか、新たに自主防災組織を立ち上げた自治会より「他の自主防災組織での活動内容を知りたい」という希望があり、自主防災組織同士の情報交換会として協議会を設立しました。第1回吉田地区防災協議会は12月8日に開催され、39自治会の防災担当者もしくは自治会長が28名参加しました。

「考える会」ではこの吉田地区防災協議会の活動により、吉田地区内の自治会を超えたネットワークの構築を目指しています。

4. 残された課題と今後の提案

本年度は昨年に引き続き「防災」を主要課題として地域づくりを推進しており、活動を定着させるための体制づくりに終始しました。しかし、地域自治組織設立についてはほとんど協議されず、棚上げしている状態です。地域自治組織設立の目途が立たないので、中長期の計画を立てることができず、協議が場当たりのものになっています。

来年度は、まずは「考える会」の役員で地域自治組織設立について素案を練り、その後「考える会」で協議をしたいと考えています。「考える会」としては引き続き「防災」を中心課題としてその解決に取り組めますが、昨年提案されている課題「にぎわいづくり」についても検討委員会を立ち上げて協議を進める予定です。

5. 地域魅力化応援隊員の業務を振り返って

今年4月に地域魅力化応援隊員に就任し、職務内容を理解するまでにしばらく時間がかかりました。9月までは各自治会長に対して防災に関する調査を行い、「しまねソーシャルデザインスクール」で研修するなどして、職務の理解と状況の把握に努めました。

「考える会」は2カ月に1度10名前後の委員で開催されていますが、1回目、2回目は「防災」というテーマがあっても委員たちは感想や意見を述べるだけで会議が進展していきません。10人の会議では、人に遠慮して議論にならないので、少人数の3名程度で構成する検討会を立ち上げることを提案しました。

3人での話し合いになると、それぞれが自分事として責任を持ち、リーダーを中心に積極的に活動を始めました。10月には第1回吉田地区防災協議会を立ち上げることができ、「吉田の未来を考える会」として始めて地域住民に提案をしました。住民から直接ご意見をいただくことにより、「考える会」の委員たちの意識が高まったように感じます。また、「考える会」としてのチーム意識も出てきたように思いました。

今年に入り、「考える会」委員の何人かは地域自治組織について多少誤解していることが分かりました。市に確認しながら誤解を解いていくと、委員たちは自治組織設立に向けて積極的になってきました。組織図や規約について自ら考えて設立に向けて動き始め、私にも調査の指示を出したりするようになりました。

今まで「吉田地区は人口が多すぎてまとまらないから、自治組織設立は無理だ」という考えが主流でしたが、それは少人数の否定的な人の声が大きかったために人々はその考えに流されていたのだと思います。人口が多い分、動いてくれる有能な人材が多いので、地域住民による地域自治組織設立は可能だと考えます。

来年度は「防災」というテーマに加え、「にぎわい」についても検討される予定です。会議の回数も増えますが、関係する地域住民も増えてきます。地域魅力化応援隊員としては、地域の皆さんによる地域課題の解決がよりスムーズに進むようにサポートしていきたいと思っています。

地域魅力化応援隊員 氏名 尼子 達夫

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

安田地区振興センター

2. 配置年月

平成 27 年 5 月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

・平成 30 年 5 月 1 日付けで一般社団法人を設立し、平成 30 年 5 月 24 日に安田地域づくり協議会の財産の寄付を受け一般社団法人安田地域づくり協議会として再出発しています。

・平成 30 年 6 月 16 日一般社団法人安田地域づくり協議会総会を開催しました。平成 29 年度の安田地域づくり協議会の実績及び決算報告、監査報告、平成 30 年度の一般社団法人安田地域づくり協議会の事業計画及び予算について協議しました。

・今年度の取組は、以前からの継続で「やすだ村ええもん市事業」「地域お助け隊事業」「史跡遺跡整備事業」「環境整備事業」「パンカフェ運営事業」「地域内買物支援事業」を行いました。平成 30 年 4 月 1 日より正式オープンしたパンカフェ運営の視察に国、県、市、匹見地区、鎌手地区、安来市、関東大学生など各方面から多くの団体の方が来られています。

『やすだ村ええもん市事業』

安田地域で生産された農産物、手作り品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。

【開催日】

第一回 H30.7.8（日）台風接近で中止

第二回 H30.10.7（日）AM9:00~11:00 出店者：22 名 来場者：約 200 名

第三回 H30.12.16（日）AM9:00~11:00 出店者：27 名 来場者：約 250 名



『地域お助け隊事業』

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈・伐採作業を代行する「地域お助け隊」を結成して 4 年目、住民が安心して暮らせる環境作りと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業員は、男性 15 名、女性 5 名。H30.4 月から H31 年 1 月までの受注件数は 63 件、内草刈伐採作業が 32 件、庭木剪定 20 件、墓地清掃 3 件、その他 8 件です。



『史跡・遺跡整備事業』

旧山陰道の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み保存してきた先駆者たちの業績を周知することで、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。旧山陰道と丸山公園の草刈りを2回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園の4地区で作業しました。

第一回目 H30.6.24 (日) 7:00~8:00 参加者：34名

第二回目 H30.10.21 (日) 7:00~8:00 参加者：30名



『地域環境整備事業』

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を造ります。

・遠田川河口付近の雑草の刈払い、焼却、漂流物の回収除去を行いました。

第一回目 H30.6.19 (火) 7:00~9:00 参加者：3名

第二回目 H30.12.26(水) 13:00~14:00 参加者：1名

第三回目 H31.1.7 (月) 13:00~14:00 参加者：1名



『パンカフェ運営事業』

H30年4月1日(日) 11:00より「パンカフェはあと」オープン式典が行われ
正

式にオープンしました。益田市長、人口拡大課、JR益田駅長、益田市議会議員、(株)野村組社長、藤山浩アドバイザー、津田医院院長、県立大学学生、地域づくり協議会関係者、地域の皆さまの参列を頂きました。「パンカフェはあと」は、石見津田駅舎を改築した店舗と設備一式を一般社団法人安田地域づくり協議会が益田市から借り受

け、パンカフェ運営を個人の方に委託しているものです。営業日は原則、毎週木、金、土、日曜（但し、毎月第三土、日曜休業）の11時から15時で、オープン以来地区内外から来店いただき、毎日完売し賑わっています。また、毎月一回特定の日に駅舎内外で、店舗の営業時間に合わせてトラック市を開き、地元の新鮮な魚介類や野菜など提供しています。そして、駅舎を利用したパンカフェということで珍しさもあり各地から視察に来られています。5/10は島根県から5/24は匹見地区から6/27は県、市、(株)ボノ7/12は国家公務員新人研修8/30は鎌手地区から11/29は安来市荒島地区から12/1-2は関東の大学生が来られました。



『地域内買物支援事業』

移動手段を持たない高齢者などの買物困難者のために、梅寿会とひれふり苑の介護施設の車で職員さんが、毎月第二、第四水曜日に地区内のスーパーに買い物の支援を実施して下さっています。現在の希望者は津田地区の方のみですが、高齢化が進むに連れ今後は希望者が増えてくると思われます。



② 活動の成果及び効果

・地域自治組織を「一般社団法人安田地域づくり協議会」としたことで、取引先や地域社会からの信用が得られやすくなったことは言えると思います。

各事業の取組について、「やすだ村ええもん市事業」は例年、年三回開催しているが7月開催予定でしたが、台風接近で会場が使えなくなることが予想されるため中止しました。従って10月と12月の二回開催となりました。毎回出品者は定着してきましたが、新しく参加される方も増えています。「地域お助け隊事業」は知名度も上がり順

調に作業依頼があり、地域の皆さんに大変喜んで頂いています。

「史跡遺跡整備事業」は年二回 6 月と 10 月旧山陰道、丸山公園の草刈作業を地区の皆さんに参加していただき行っており、地区の恒例行事となっています。「環境整備事業」は前年度より回数は減っていますが、遠田川、嶽川の草刈と海洋漂流物の回収を行っています。「パンカフェ運営事業」はH30年4月1日開業以来、売上は計画よりは下回る（年間売上予測 760 万円）ものの、毎日売れ残ることなく完売状態で推移しており順調と言えます。各地から視察に來られたり、市内外からの来店もあり、津田の地の活性化に大いに貢献しています。「地域内買物支援事業」は毎月二回の買物支援ですが、移動手段を持たない高齢者などの外出の機会と皆さんに会える楽しみが増えたのではないかと思います。

4. 残された課題と今後の提案

- ・パンカフェの来客数が減少傾向にあり、外販に頼ることが多くなりつつあり、少人数での製造販売には労力的に限界があります。現在月一回開催のトラック市のようなイベントの開催を増やして、集客アップを図る必要があります。同時に、施設を地域のコミュニティとしての活用ができていないので、少しずつ地域の保健室や、健康教室として、気楽に集える場所になるよう活用方法を充分検討する必要があります。
- ・地域内買物支援事業は現在介護施設の車頼りでの運行です。いつまで運行して頂けるか分かりませんが、お願いするばかりです。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として4年になろうとしています。自治組織設立後は自治組織全般の事務作業を支援していますが、結構な事務量になっています。誰かにお願いするにしても現在の交付金の中からはとても報酬など支払えず、止む無しの状況です。H31.3.31で地区振興センター廃止の話もあり、今後の仕組みがどのような形で落ち着くのか静観するしかないところです。自治組織で取り組んでいる事業のなかでも一番の収入源である「地域お助け隊事業」は、4年目ですが順調に推移しています。

「すぐやる」「丁寧に」をモットーに取り組んでいますので、今まで一つのクレームもありませんし、常に安全第一を心掛け一つの事故も無く感謝しています。そして毎年依頼して下さるリピーター件数も増加し喜んでいきます。

「パンカフェ運営事業」もほぼ順調に売上を上げているようですが、どうしても外販に頼ることが多くなっており、その度に一般社団法人の理事が応援している状況を何とかしなければなりません。月に一回開催のトラック市のような誘客イベントを増やす必要性を感じています。もう一年間皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

平成30年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

鎌手地区振興センター

2. 配置年月

平成30年4月から

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・ 鎌手地域自治組織設立準備会 役員会 1回開催
- ・ 鎌手地域自治組織設立準備会 総会
- ・ 鎌手地域自治組織設立準備会 7回開催 (H31.3月開催予定含む)
- ・ 安田地区先進地視察研修会の実施
- ・ 地域自治組織だより回覧 2回発行 (H31.3月発行予定含む)
- ・ 鎌手地区全戸アンケートの実施
- ・ 特定外来生物防除講習会の実施

②活動の成果及び効果

《平成30年度鎌手地域自治組織設立準備会 総会》 平成30年6月20日

[協議内容]

- ・ 役員・構成員の交代について承認
- ・ H29年度地域自治組織事業実績・決算報告について
- ・ H30年度地域自治組織事業計画・収支予算書(案)について

今年度は鎌手地区各種団体の役員交代があり、それに伴い準備会も新会長となり構成員も数名の交代があった。

前年度の事業計画では、地域自治組織設立時期目標を平成31年3月としていたが、構成員の交代があったこと、地域全体の自治組織への周知や意識の低さなどからみて、目標時期を平成32年

3月に延長することに決定した。

その他、先進地視察を安田地区、収支予算案は一年間活動していく中で、変更が必要となれば対処していく、ことなどを協議した。



《安田地区 先進地視察研修会》 平成30年8月30日

一般社団法人として運営されている「安田地域づくり協議会」の取り組みは大変参考になった。特に地域の困ったを解決するために有料で請け負う『お助け隊』事業には、草刈りの問題などの鎌手地区の課題と重なり、興味深く話しを聞いた。



視察後の感想では「草刈りならできるのではないか」「できることからやってみようか」と声があった。視察で話しを聞いたことで、以前に比べて事業を身近に感じることができたように思う。

《第2回 鎌手地域自治組織設立準備会》	平成30年7月24日
《第3回 鎌手地域自治組織設立準備会》	平成30年9月26日
《第4回 鎌手地域自治組織設立準備会》	平成30年10月23日
《第5回 鎌手地域自治組織設立準備会》	平成30年12月6日

〔協議内容〕

- ・平成26年度に実施されたアンケート結果をもとに、住民が困っていることに焦点をあて協議する。
- ・地区住民の望む何かをできることからやって「暮らしやすい鎌手にしたい」という思いで意見を出し合う。
- ・「北仙道の明日をつくる会」コーディネーター檜垣氏に、設立までの経過や若い世代を巻き込んでいく方法などのアドバイスをいただいた。
- ・仮のまちづくりプランを作成しイメージを作る。

「草刈りや稲刈りなどの支援隊」
「買物支援」 「鳥獣対策」
「唐音蛇岩と水仙公園の事業」
「子供や高齢者が集う場所」
「水仙以外で鎌手をアピールできる特産品」
などの案が出る。



《第6回 鎌手地域自治組織設立準備会》

平成31年1月16日

〔協議内容〕

- ・アンケートについて
- ・まちづくりプランについて
- ・規約について

これまでの会議や視察を通して、地区住民の困ったを解決するための「支援隊」をつくって事業をすることを取り上げて協議が進んでいたが、

「困っている人は、どのような方法で現在生活されているのか。」

「本当に困っているのか。」

「支援隊があれば利用する人がいるか。」

などの疑問点が出てきた。それらを把握するために、過去のアンケート集計結果より、困っていることのいくつかを取り上げ、鎌手地区全戸アンケートを実施することに決まる。その結果を見てこれからの取り組みを進めていく。

平成1月19日～27日の間でアンケートを実施。

《第7回 鎌手地域自治組織設立準備会》

平成31年2月19日

〔協議内容〕

- ・アンケートの集計結果について

	配布数	回答数	回収率
鎌手地区合計	576	483	83.90%

集計結果を見ながら「地区住民が何を望んでいるか、まず何をやるか」を話し合った結果『草木の処理』と『移動手段』から取り組んでいくことに決まる。



《第8回 鎌手地域自治組織設立準備会》

平成31年3月5日 開催予定

4. 残された課題と今後の提案

一年間準備会での協議や鎌手地区民全世帯対象とした意向アンケートなどを行った結果、今後自治組織で当面活動する課題の絞り込みを『草木の処理』『移動販売』に決める。

今後はこれらの課題解決に向け部会を立上げ、具体的な活動計画を議論することとなる。現在の準備会役員も70代～80代の方が多く「若い人や女性の参加が大切」との声が多い。他にも、専門知識がある人、自治組織に関心がありやる気がある人など幅広い人材を巻き込んでいくことが必要になる。

地区住民の自治組織への周知を広げること、人材に関しての情報を得ることが大切だと思う。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度より地域魅力化応援隊員に就任し、自治組織とは何かを理解することが難しく、何をどうしていいのかわからないまま一年が過ぎてしまいました。

準備会委員の皆様をはじめ、沢山の方々にアドバイスをいただきながら、皆様の力で自治組織設立へ向けて少しずつ前に進んでおり、私も勉強させていただいております。地域のことや、人をもっとよく知り「暮らしやすい鎌手」をつくっていくための力になりたいと思っております。

地域魅力化応援隊員 氏名 大久保 佳美

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

北仙道地区振興センター

2. 配置年月

平成 29 年 4 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

「自治組織設立」

平成 30 年 7 月に自治組織設立総会を行い、参加者 78 名で「北仙道の明日をつくる会」が設立した。

平成 27 年 5 月に自治組織設立準備会議を立ち上げ、約 4 年協議し、まちづくりプラン・規約・活動計画の案を全戸配布し、自治会毎に説明会を行って住民周知を得た。

北仙道の明日をつくる会の中で、3つの部会をつくり、部会ごとの目的と内容を明確にする。

- ・つながり部会…北仙道地区内の人と人が繋がり、一緒に学び、住民自ら新しい価値をつくる。
世代別のコミュニティ醸成・世代間交流事業の企画・生涯学習企画
- ・課題解決部会…北仙道地区内の課題を特定して、解決するための施策を計画・実施する。
課題毎の解決・専門的なスキルを要した次世代育成
- ・定住促進部会…北仙道の人口維持・拡大を目指し、地域外からの定住促進に資する事業を実施する。
情報発信・観光振興・移住相談窓口

「よめな会作業場施設整備事業」

地域自治組織、北仙道の明日をつくる会予算の中で、地域魅力化事業の時に設立した、北仙よめな会、加工クラブが、新しい商品開発の為、保健所に営業許可申請を行うために、作業場施設設備事業として、まちづくり特別活動補助金を申請した。

②活動の成果及び効果

「自治組織設立」

北仙道の明日をつくる会が設立後も準備会の時同様、役員会を実施し、時には役員以外にも会長が必要と認める時の役員以外の出席で会議を行った。

部会ごとに会議を開催し、まちづくりプランに沿って、自主的に工夫をこらしながら活発に活動をすることができた。

- ・つながり部会…公民館行事を一緒に行ない、毎年実施している通学合宿を休日合宿

に名前を変え、中学生の学習チーム陽光会と図書室復活プロジェクトを行い、多世代交流のできる事業となった。

- ・課題解決部会…草刈り事業「北仙活力隊」を設立し、地区からの草刈り隊登録者は16名で、年末から現在2月時点で、で3件の草刈り依頼があり実施した。

草刈り作業後には「きれいにしてもらえて大変助かった」と依頼者より地区振興センターへ連絡があった。

よめな会は例年通り、ナスの辛子漬け作業を実施したが、昨年とは作り方を変え、作り方について指導してもらった。

- ・定住促進部会…地区内外への情報発信、空き家調査を主に実施し、フェイスブックによる情報発信では、地区内外の人から多くの“いいね”やコメントがあった。コメントの中には北仙道出身者からのコメントもある。空き家調査では、部会員が担当し、地区の空き家写真を部会でまとめ、小野地区へ空き家調査についての視察を実施した。

各部会が活発に活動していることは、毎月の自治組織たよりで、地区住民に周知した。役員以外の住民も、1～2名と少ないが部会への加入者があった。

自治組織が設立し、部会が動くことによって、「自分達でやろう」と思う住民が増えつつあることが成果だと思う。

「よめな会作業場施設整備事業」

まちづくり特別活動補助金を申請し、今後の商品開発の参考に、漬物工場の視察研修に行かないかと、提案をしたところ、「是非行きたい」とよめな会メンバーより返答があり視察を実施した。視察当日は、メンバーそれぞれに質問をし、試食をして味を確かめていた。山折集会所を借り、集会所の改修工事中は加工作業を休止していた。改修工事が終わった後に、「よめな会の作業はいつから開始するだろうか？」と声があり意欲が感じられた。



つながり部会 会議・休日合宿



課題解決部会 北仙活力隊活動



課題解決部会 よめな会視察・ナス辛子漬作業



つながり部会 小野地区視察・SNS 教室



4. 残された課題と今後の提案

「北仙道の明日をつくる会」が設立し、部会もそれぞれに動き出しているが、自治組織設立準備会の役員が各部会に振り分けられた所からスタートし、成果及び効果に書いた様に、少しずつ部会のメンバーが増えている。

新しく部会に入った住民は20代と70代で、子育て世代の部会員はいない。部会員にならなくても、地区の行事や、今回の休日合宿のような企画に子育て世代や30代～50代の年代の参加が増えると良いと思うので、子供と一緒に参加できる内容を議題にしたワークショップが役員や、部会員とできるように持ちかけたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員は2年目となり、地域自治組織の設立、総会までの準備が大きな山でした。ですが、1年目とは違い会議の進行がスムーズとまではいかないが、進められるようになり、地区の人の顔、地区内の様子がわかるようになりました。

分かるようになったことで、北仙道の明日をつくる会のメンバーとより一層、一緒になって地域自治組織の設立に向け動くことが出来たと思います。

自治組織の役員以外の方とも、高齢者とは月1回の買い物ツアー、小中学生とは休日合宿や、イーボードを使った学習の陽光会、運動会、文化祭を通してふれあいができ、行事参加もとても楽しかったです。

SNSを始めるきっかけになった北仙道地区の情報発信も自分にとって、新しいスキルになったと感じています。

北仙道地区の皆さんに、他地区の応援隊員の皆さんにお世話になり過ごした北仙道応援隊員の2年間はかけがえのない時間でした。

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

豊川地振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月 1 日から

3. 活動の概要

①活動の内容

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・地域自治組織の支援（各会議・定期総会の開催、運営の支援・調整等）
- ・まちづくり活動の支援（公民館との協働、関係諸団体との連絡・調整等）
- ・まちづくり活動交付金（申請及び提携業務等）
- ・まちづくり特別補助金（申請及びプレゼン説明等提携業務等）
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援（会議、運営の支援・調整等）

II. まちづくり活動計画

- ・とよかわの未来をつくる関係人口創出事業（総務省事業）
- ★地域の暮らしサポート実証実験事業（未来づくり委員会）
- ★多様な交流の入り口づくり事業（ひとつづくり部会）
- ★お試し居住施設整備事業（魅力づくり部会）
- ・未来づくり委員会
- ★地域の暮らしを支える仕組みづくり
- ★既存行事やイベントの見直しの検討 ★新事業の企画・立案
- ★地域内外への情報の発信
- ・ひとつづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
- ★とよかわ寺子屋の運営 ★とよかわっしょい!!（中学生活動）の支援
- ★地区内外との交流（総務省事業） ★大人の学びの場づくり
- ★保小中の活動の支援
- ・魅力づくり部会
- ★お試し居住施設の整備 ★空き家や遊休農地の活用
- ★歴史的遺産の保存

②活動の成果及び効果

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・とよかわの未来をつくる会役員会の開催
- : 第 1 回 : 平成 30 年 4 月 10 日 (火) 19 : 00 ~
- 豊川地区振興センターにて役員 12 名他 3 名 計 15 名出席
- ★未来づくり委員会、ひとつづくり部会、魅力づくり部会の組織体制の協議。

- ★役員会の年間スケジュールについて協議。(開催日は毎月第2火曜日)
: 第2回:平成30年 5月 8日(火) 19:00~
久々茂集会所にて役員11名他4名 計15名出席
- ★定期総会の説明(次第、事業報告、決算報告概要、シナリオ等)
- ★とよかわの未来をつくる関係人口創出事業(総務省)についての説明。
 - ・とよかわの未来をつくる会 定期総会の開催
:平成30年6月17日(日) 13:30~ 久々茂集会所
- ★定期総会、講話(益田市ひとづくり推進監 大畑伸幸氏)や研修会(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏)の開催。
- ★住民約110名の参加により「前年度事業報告」や「前年度収支決算報告」及び今年度の「事業計画(案)」、「収支予算(案)」の承認。
 - ・とよかわの未来をつくる会 会議開催状況
:役員会12回、未来づくり委員会12回、ひとづくり部会4回、魅力づくり部会4回(遊休農地活用研修会を含む)開催。
- ★まちづくりプラン、地域づくり計画に沿った活動に取り組むための話し合いを実施している。
 - ・まちづくり活動交付金(650千円)は、各委員会及び各部会の活動支援に充当。
 - ・まちづくり特別補助金(1,000千円)は、お試し居住施設整備事業(総務省事業)の設計監理料として万設計へ支払い。
 - ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援
:ひとづくり部会と連携し現在4回の会議を開催。
- ★事業活動(とよかわっしょい!!・ひとまちカレッジ・親子体験プログラム他)の実施及び支援
 - ★大正大学による地域実習に係る業務支援。(経理事務等)



とよかわの未来をつくる会役員会



とよかわの未来をつくる会定期総会

II. まちづくり活動計画

- ・とよかわの未来をつくる関係人口創出事業(総務省事業)
- ★地域の暮らしサポート実証実験事業(未来づくり委員会)
交通弱者対策や生活サービスの一環として見学や買い物等のツアーを実施。アンケートや意見交換に協力をいただく。
- ★多様な交流の入り口づくり事業(ひとづくり部会)
定住財団主催による地域の課題解決に向けたテーマ別の分科会に参加。空き家・古民家等の活用事例を学ぶ。
- ★お試し居住施設整備事業(魅力づくり部会)

小・中・高生をはじめとし地区の方々や大正大学生など沢山の方が古民家のリノベーションに参加している。

・未来づくり委員会

★地域の暮らしを支える仕組みづくり→総務省事業の通り

★既存行事やイベントの見直しの検討→役員会と並行して協議。イベントの協議や後の「ふりかえり」により見直しを図る。

★新事業の企画・立案→遊休農地や耕作放棄地について考える研修会を実施。

★地域情報の発信→フェイスブック、UI ターンフェアへの参加。情報誌等の掲載により豊川地区の情報発信を行う。

・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）

★とよかわ寺子屋の運営→英語教室、バブルサッカー、プログラミング教室、書初め教室等を開催。

★とよかわっしょい!!（中学生活動）の支援→文化祭への出店、子どもによる地域活動研修の参加により自己啓発を行う。

★地区内外との交流→総務省事業の通り

★大人の学びの場づくり→ひとづくり部会等女性をメインに「色んな人を元気にしていく」企画・運営に取り組み。今年度は「朝ヨガ&モーニング」や「パッチワーク教室」を実施中。

★保小中の活動の支援→豊川地区連合運動会など連携して行う活動や保小によるサツマイモ植え体験などふるさと教育の活動を支援。

・魅力づくり部会

★お試し居住施設の整備→総務省事業の通り

★空き家や遊牧農地の活用→空き家対策や遊休農地・耕作放棄地の勉強会を開催。空き家バンク登録を促す空き家所有者へのアンケート調査を実施中。

★歴史的遺産の保存→地区の方々の協力を得ながら倒木処理、除草作業等により景観を損ねることのないように環境整備、維持管理を行う。



交通弱者対策・買物見学ツアー 大田市で行われた分科会に参加 古民家リノベーション風景

4. 残された課題と今後の提案

I. 地域自治組織設立に関わる業務

今年度はまちづくり活動計画（3ヶ年）の2年目として、各事業の実施を視野に地域課題の整理・解決、情報の共有・周知等、地域運営の仕組みづくりに取組んだ。

地域自治組織設立3年目となる来年度は、さらにまちづくり活動計画の拡充を図り、地域のために住民が心一つにして、夢と希望を持ち活力ある「とよかわのめざす将来像」に向けた「まちづくり」に取り組みたい。

魅力あるまちづくりをめざすためには、これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく仕組みの構築を図らなければならぬと考えている。

II. まちづくり活動計画

今年度より「とよかわの未来をつくる会」では、地域の将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」及び、課題解決に向けて実施計画を定めた「まちづくり活動計画」を柱とした事業「とよかわの未来をつくる関係人口創出事業（総務省）」に取り組んでおり、今後は将来にわたり地域住民が安心して住み続けられる環境整備を図り、魅力あふれるまちづくりをめざしたい。

・未来づくり委員会

高齢者世帯の増加、生活面や交通面の対策が急務となっている。少子高齢化や人口減少に伴う担い手不足、各種団体の存続が危ぶまれている。生活の安全安心確保のため、地域の暮らしを支える仕組みの構築が必要と考える。

・ひとづくり部会

地域内外や世代間の交流の機会が少なく、地域の未来を担う次世代の人材が不足している。地域の交流・移住促進のため、地域内外の交流やひとづくりの推進が必要と考える。

・魅力づくり部会

後継者や人材不足により空き家や遊休農地が増加。また高齢者の増加や若者世代の流出により地域資源の維持が難しい。地域の活性化・魅力の創出のため空き家や耕作放棄地などの活用、歴史的遺産の保存等環境整備を図りたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記の活動以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への支援をさせていただいた。

・地区イベントのサポートとして、地域の現状把握もあり、各種イベントの参加。独自のパソコン教室「パソコンカフェ」（月2回）の開催。

次年度も「とよかわの未来をつくる会」をはじめとして、まちづくりプランのテーマである「住みよい豊川・住み続けたい豊川」そして未来へを目標とした「まちづくり計画」のスムーズな進行及び実施できるよう委員会や各部会と連携し事務局としてサポートしていきたい。

豊川地区に配属されて早いもので5年が経った。地域の中で働いているという実感も湧いてきたが、総務省の事業では地域の現況等、今更ながら地区の方々との交流不足を実感。地域に入り込むためにも、より一層の努力が必要だと痛感している。

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の運営に際し、地区の方々の惜しみない協力で頭が下がる思いである。

地域魅力化応援隊員 氏名 栗山 三男

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

西益田地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 1 2 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・ 準備会運営委員会では各検討委員会の計画案をチェックしつつ、まちづくりの会の規約の精査と人事案を丁寧に協議した。また、部会を検討委員会と改め、部会員を検討委員とする事で合意した。
センター及び準備会の運営委員会：計 5 回、内全体会 2 回
- ・ 西益田地区を 7 ブロックに分け、各ブロックからのまちづくり検討委員を増員してもらい、昨年度までに協議してきた“まちづくりプラン”“5ヶ年の活動計画”を基に設立初年度の活動計画、予算案を検討した。
まちづくりの 4 検討委員会：延べ 19 回、内全体会 3 回
- ・ 5 委員会横断の PR プロジェクト を組織し、住民周知の為の会議を重ね、“西益田のまちづくり”を知ってもらうための PR パンフレットを作成。年度末に各戸配布。
また、各自治会の集会所に掲示してもらう“まちづくりのポスター”も作成。
- ・ 昨年度同様につろうて子育て推進事業との共同事業として、「手作りのイルミネーション」事業を中学生と地域住民が一緒になって設置、装飾、撤去した。



センター・準備会運営委員会



準備会全体会（自治会長含む）



PRプロジェクト



イルミネーション設置事業

②活動の成果及び効果

- ・ 地域自治組織設立に関しては当初予定より1年先延ばしにしたことで、より丁寧な合意形成が出来たと思う。

本来的な組織の必要性が、当地区に於いては将来に備える事だとの認識でスタートしているので、“ひと”の発掘と醸成、つまるところの人づくりに主眼を置いての組織編成と人選びになっている。地域が一丸となって“まちづくり”をして行くという観点からも検討委員の選出を各自治会にそれぞれ一任したことで、まちづくりに関わっていく人が増えていく、底辺が広がる仕組みを作る事が出来た。長くこの組織が続いていくと、いつの日か住民ほとんどがまちづくりに対する認識を共有できる時が訪れると確信する。

また、そうして選出された委員がまちづくりの会議に出席することで今までのそれぞれの生活の中では交わることのない人との交流も生まれ、地縁を繋ぐ事にも好作用すると思う。

- ・ “手作りの Xmas イルミネーション”では他の公民館事業と同じく、地域の子どものための地域への関わり・出番・役割づくりとして役立っていると感じる。毎年恒例化出来ることを期待する。
- ・ 準備会の5委員会を横断したプロジェクトで地域への住民周知を考えて、まずはパンフレット・ポスターを作成した。このプロセスは各検討委員会でのケーススタディとして今後の活動に役立つ経験となると思う。
- ・ いずれも設立初年度からの委員会活動の演習として会の進行を工夫したので、この実践を参考にして行けばとりあえずの運営はできていくと思う。

4. 残された課題と今後の提案

- ・ 西益田地区における地域自治組織では、まだまだ「まちづくり」やそのための「組織」の必要性が周知できていないように感じる。丁寧な周知が要ると思う。
- ・ 市からの補助金・交付金以外の補助金・助成金・交付金の獲得が組織設立後の課題だと思っている。その為に予め行うべき事業と予算の素案を固めておく必要もあると思っている。
- ・ 地域自治組織設立後の課題は ①収益事業 ②法人格取得 この2つだと思っているが、提示できる資料を整理できていない。また、タイミングが推し量れていない。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

- ・ 西益田地区に於いては地域のまとまりが非常にあると思っている、ひとたび合意形成がなされれば皆がその方向に向かっていくことが出来る。隊員としてはとてもやり易い環境だった。
- ・ 今年度1年をかけて初年度のシミュレーションがしっかりできたと思っている。
- ・ 法人格に対する認識が地域へ説明できるほどに学習ができなかったのが悔やまれるが、当面西益田では焦らない方が良いと思う。

地域魅力化応援隊員 氏名 堀江宗仁

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

二条地区振興センター

2. 配置年月

平成 29 年 4 月 1 日

3. 活動の概要

① 活動の内容

平成 27 年 6 月 17 日の地域自治組織第 1 号認定より実質的活動を開始した「二条里づくりの会」の「平成 27～31 年度 元気な邑づくりプラン」（5 年計画）4 年目となった本年は、

- ① 次世代を育成する事業
- ② 住民をふやす事業
- ③ 高齢者にやさしい事業
- ④ 新たな産業を興す事業
- ⑤ 安全・安心な暮らし事業
- ⑥ 環境をよくする事業
- ⑦ 里山の環境を活かす事業

の 7 本柱（各種事業計画）に沿って本会が活動するに当たり、

- 益田市より交付される「まちづくり活動交付金」の申請書作成・提出、交付決定後の請求書作成・提出業務、及び「まちづくり活動特別補助金」の見積書提出依頼・収集、申請書作成・提出、プレゼンテーション用 PP（パワーポイント）作成、プレゼンテーション参加・説明・PP 操作、写真撮影・まとめ、交付決定後の請求書作成・提出業務。
- 上記「交付金」・「補助金」入金後の会計処理業務。
- 本会の「総会」・「役員会」・「部会」・「合同部会」開催時の案内書作成・送付、資料作成、説明・提案、写真撮影・まとめ業務。
- 各種事業実施時の資料作成、随行・参加、写真撮影・まとめ業務。
- 各方面からの視察団受け入れ日時等の調整、資料（主に PP）作成、会場準備、随行・参加・PP 操作、資料代等の入金管理、写真撮影・まとめ業務。
- 1～2 ヶ月毎に地区内全戸配付する「便り」の作成業務。
- 平成 30 年 11 月 10・11 日に松江市で開催された「平成 30 年度 島根県自主防災組織リーダー研修会」への参加に代表される各種研修への参加、写真撮影・まとめ、復命書作成・提出業務。

等に従事すると同時に、平成 30 年 12 月 26 日（水）に通達のあった「平成 30 年度 ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰（団体表彰）」受賞に際しては、先ず、平成 30 年 7 月の推薦のお話があった時点で、

- 「推薦書作成」に取り組み、7月20日に島根県経由にて提出し、通達後は、
 - 平成31年2月3・4・5日（日・月・火）の東京行き（4日の表彰式参加）に関して、「東京滞在中の時間計画」・「表彰式参加者の届けの送付」・「表彰式会場での展示ブースへの展示物作成」等に取り組み、1月24日（木）の緊急役員会にて正式に「2月24日（日）の受賞記念祝賀会の開催」が決定した後は、
 - 「横断幕の図面作成、及び見積依頼、正式発注」、「地域づくり専門誌への原稿作成、メール送信」等をこなし、2月4日（月）の表彰式当日は、
 - 「会場到着後の展示ブースへの展示物展示」・「表彰式開催中の写真撮影」・「表彰式後の展示物撤収作業」等に従事すると共に、帰益後は、受賞記念祝賀会の諸準備
 - 「祝賀会参加ご案内状・出欠葉書の作成、送付（93通）」、「会場レイアウト図の作成と変更」、「席次案の作成、協議」、「ご芳名名簿（受付け用）の作成」、「司会進行・時間割表の作成」、「座席表・テーブル案内の作成」、「式次第案の作成と協議、変更」、「葉の作成と変更、及び印刷」、「会場内展示物の作成、及び印刷」、etc.
- に忙殺されると、祝賀会前日は、
- 「会場内展示物の展示」、「テーブル・椅子等、会場全般の準備」等に従事し、祝賀会当日は
 - 「最後の展示物の展示と確認」、「テーブル・椅子等、会場全般の配置の確認」、「祝賀会最中の写真撮影（210カット余り）」、「後片付け」等々に従事し、祝賀会後は、
 - 「祝賀会参加ご礼状の作成、送付（65通）」、「特別会計のまとめ」等々をこなし、この間目まぐるしい2ヶ月余りを過ごしている。



表彰式での様子

（平成31年2月4日、東京都千代田区にて）



祝賀会での様子

（平成31年2月24日、桂平小学校にて）

② 活動の成果及び効果

本年度が二条地区での活動「2年目」であり、地区の方々の「顔と名前」も随分と一致するようになり、やはり1年目よりは「親しさ」の増した活動がこなせたように感じている。

先ず、昨年5月20日（日）の定期総会では、無事「規約改正」が承認され、種々の「基準」も制定出来た点が成果であろう。初年度のおよそ1年間を掛けて話し合ってきた結果であり、今1年弱を運用してみた感想では、「80点」

辺りの点数を付けられるのではなかろうかと感じている。

ただ、役員・運営委員の一部より「その運用方法が、少々難しい」との意見や、「議事録・議事要旨のまとめ方が、まだ未熟！」との指摘があり、改善点はある。結局、規約たるもの「不変」にする必要は無く、おかしな点があれば、また改正すれば良いと思うのである。

年度前半は「ルーラルミーティング in しまね」等、大きな視察案件が持ち込まれ、それに対する役員・運営委員の方々、そして一般会員の方々の「関わり方」をどういった方向に持って行くか、その辺りでの葛藤もあったのではあるが、総じて当地区の方々には各種行事、会合等への参加率が非常に高く（平均すると、80%程度だと感じる）、多くの意見・考え方を生かすことが出来た点では、及第点を付けることが出来ると思う。

年度中盤の「まちづくり活動特別補助金」の申請前より、平成31年度中の「自主防災組織の設立」を強く進言することが出来、地区内2カ所への「AED（自動体外式除細動器）」の設置が実現出来、二条地区の方々には、ほぼ「AED設置点より半径2km圏内」に居住している形となり、5～6分程度でそれを持って来られる環境になった。

尚、AEDは使わないに越したことはないのだが、その「安心感」を当地区に持ち込むことが出来たことに意義がある。

また、11月10・11日の2日間、松江市で「平成30年度 島根県自主防災組織リーダー研修会」が開催され、本会担当部会であるくらし部会の部会員と応援隊員の2人で参加し、その内容を把握出来たことは大きいと感じている。

年度終盤は、前記した「平成30年度 ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰（団体表彰）」受賞に関する諸準備で忙殺された訳だが、これは、これまでの当地区の方々の活動に対する「ご褒美」だと感じており、その朗報に報いるお手伝いが出来たという点で嬉しい限りである。

4. 残された課題と今後の提案

残された課題としては、来年度はいよいよ本会の「平成27～31年度 元気な邑づくりプラン」の仕上げの5年目となる為、ラストスパートを掛けねばなるまい。その中には、この4年間でほとんど進んでいない計画（目標）もある。

列記すると、前記した「自主防災組織の設立」を中心に、以下のようなものが挙げられる。

- ① 「竹パウダー」の堆肥化、販売ルート探しとブランド化
- ② 「サル囲い檻 第2弾」の建設
- ③ 空き家の減少促進とIターン者の誘致
- ④ 「二条米」のブランド化と本会による一元販売
- ⑤ 「二条発カレンダー（日めくり）」の制作と販売
- ⑥ 「法人化」を目指した勉強会の実施
- ⑦ 新規事業への挑戦（新聞配達、福祉有償輸送の検討、安否確認等）

尚、この度の総務大臣表彰受賞を契機に思うのは、中々「あれもこれも」するのはきついということである。

つまり、この度東京の表彰式に行って、他地区の展示や事例発表のお話を聞くにつけ、

○ 「それ相応の人口で出来得ることは、それ相応のことである！」
という印象を受けて帰って来たからである。

つまり、最初の5カ年プランは、希望に燃えて作られたのだから、それはそれで良いと思うのだが、曲がりなりにも4年間やって来てみると、前記したように4年間で何も手を付けられなかった計画（目標）もあるのである。

この4年間で、人口520人ばかりのこの地区で「出来得る事業は何ぞや？」ということが良く理解出来たと思われる。故に、平成31年度はもう1年、私が当地区の地域魅力化応援隊員として推挙されたのであるが、来年度は「次の5カ年プラン」を策定しなければならない。

つまり、今後の提案としては、

○ 「身の丈に合った、達成可能な次の5カ年プランを作ろう！」
といったことを提言したい。



轆轤鑽（ろくろひきり）での火熾し
（平成30年7月16日、高槻SFSにて）



竹パウダーの生産現場にて
（平成31年2月13日、地区内某所にて）

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

前任地が4年、そして二条地区が2年過ぎ、トータルで私の地域魅力化応援隊員としての活動は「6年」になった。この間、特に二条地区での「2年」は充実しており、この度の「平成30年度ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰（団体表彰）」受賞という栄えある機会に同席させて頂くことも出来、自分としても本当に晴れがましく、「この年度末の喧騒、何たるものぞ！」との気概で臨んでいる昨今である。

ここで、昨年書いた反省点を振り返ると、本年度は前記したように前半、大きな視察受け入れが続き、年度中盤から終盤にかけては受け入れることが無かった。ただ、この度の受賞を経て、これからまた視察受け入れが増えることが予想される。

今後は、「視察の受け入れ基準」も整ったことから、受け入れに振り回されること無く望んで行きたいと考えている。

またもう1点、今は「2020年度」としか書くことが出来ないが、再来年度に予想される「地域マネージャー制への移行」に備えて、役員・運営委員の皆さんとは勿論のこと地区内の様々な方々と、「どういった道筋で、どういった形を採るか？」という事を話し合っていかなければなるまい。

この度の受賞で東京に行って帰った後の感想は、前記した「それ相応」というのもあるのだが、もう1点は、「立ち止まってはダメだ！」というものである。

以上

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

美濃地区振興センター

2. 配置年月

平成 30 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

○定期総会の開催

5 月 19 日（土）、地域自治組織「はつらつ美濃の里」設立後初めての定期総会が、役員・代議員合わせて 23 名の出席のもと開催されました。

○支え合い・見守り事業について

危険過所の把握と避難場所の確認をし、必要な情報を収集してマップづくりをするため、「河内地区」と「中の口地区」を調査しました。

○多世代交流事業について

11 月 27 日（火）、多世代で楽しむ大会としてグラウンドゴルフ大会を開催し、小学生から高齢者まで 18 名の参加がありました。

○勉強会参加及び他地区視察について

「まちづくりラウンドテーブル」「地域づくり人養成講座」に会員とともに参加しました。まちづくりラウンドテーブルでは、地域にとっての地産地消について学び、地域づくり人養成講座では、マイプランの作成を行い地域に対する自分の思いを描き、今後の地域づくりの上での手法を学ぶことができました。

また、「結い学び部会」では地域づくり先進地視察として、2 月 24 日に真砂地区を訪問し、山城や交流拠点施設「tele-glue」を見学しました。

○伝統文化の継承・歴史の掘り起こし事業について

盆踊り口説きについては、中学生 2 人が「口説き保存会」の指導により練習を行い、成果を披露しました。

また、歴史や自然資源を活用したウォーキングを「健康を守る会」の開催に合わせて歴史ウォーキングを行ないました。

今年度は、地域課題解決型公民館支援事業である山城ルネサンス「中世・桜田城物語」事業と連動して事業展開をし、城山跡を地域のシンボルとして整備し、地区民の故郷に対する認識と誇り及び活力を育てることとしました。

○AED 講習（生きがいつくり・健康づくり事業）について

8 月 25 日（土）益田消防署の救急救命士を招き、緊急事態に備えるために心肺蘇生・AED（自動体外式除細動器）の使い方講習会を開催しました。

○美濃地区外出者支援事業について

美濃地区外出支援委員会で協議のうえ、独居高齢者等の買物や診療を目的に、外出支援の実証運行をしました。

○「お助け隊お試し活動」について

地区の方々の困りごとに対応する「お助け隊お試し活動」のため、どのような困りごとがあるか、情報を収集に努めました。(てごすけ部会)

○耕作放棄地対策及び景観向上事業について

耕作放棄地解消や景観向上活用のために機械を配備し支援していますが、さらに法面や畦畔を除草できる草刈機を配備し、活用の幅を広げました。

○フェイスブック研修について

フェイスブックについてはページ運営の検討を行ない、2月9日(土)には新たな投稿者を募るために地区民を対象に勉強会を実施しました。

○産業開発について

「はつらつ美濃の里」の支援団体である「ジャスミンの会」は、自治組織との協議・支援のもと、ヒマワリ油やヒマワリ石鹸に続いて「オールインワンクリーム」の販売を始めました。

○多目的交流について

支援団体「ふれあいサロンの会」は、「ジャスミンの会」や地区他団体と協力のもと、「山菜まつり」、「ひまわり祭」、「そば祭」を開催しました。

「ぼんぼりの会」は盆行事における燈籠設置、年末にはイルミネーションを点灯して、地区民や帰省した方々を癒してくれました。

②活動の成果及び効果

地域自治組織「はつらつ美濃の里」も設立され2年目となり、1年目の経験や反省から、部会毎に、役員だけでなく会員の中から自主的な意見交換による協議や地域活動の動きが見えてきました。

4. 残された課題と今後の提案

地域自治組織設立後、基本方針のもと会員の努力により事業展開してきましたが、1年経過してあらためて事業を見直す必要があるかと思われます。

地域自治組織は委員が中心となり事業が展開されていますが、まだまだ事務局や公民館への依存は多くあります。地域の努力もむなしく人口減少は進んでおり、高齢化に伴い役員も新陳代謝が求められる中、後継者が不足していることは否めません。

これまで、次世代のリーダー育成が急務だといわれ続けていますが、後継者不足は解消されていません。引き続き、地域自治組織が中心となり、一部に負担が集中することなく、地域全体の関わりの中で事業展開を行なう必要があると思われます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

昨年4月に地域魅力化応援隊員業務を引き継ぎ、要約された引継ぎ書で事業展開するにはずいぶん悩まされました。提出期限が近づくと、書類やデータファイルの保管場所を探すのに追われる毎日でした。

地域自治組織と公民館とは両輪での協働作業と思っていましたが、地域自治組織の業務は応援隊員でないとわからないという事が多くありました。それでも、少しずつ業務を整理し、公民館行事や自治組織行事を職員全員で考え協力し合うことで事業展開ができました。もちろん地域の方の働きがあった上ですが、不慣れな応援隊員が地域の皆様の寛容な心で協力を頂き物事を進める事ができました。

この1年間の経験を活かし、地区の方々や自治組織委員また公民館職員をあわせた「チーム美濃」で次の事業展開をしていきたいと考えています。

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野地区振興センター

2. 配置年月

平成 30 年 4 月

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

小野地区においては、平成 29 年 3 月に「夢あふれる小野の里」を設立し 2 年目を迎え、応援隊員としての活動は、同組織の活動方針に沿って事務的な支援を行った。

「夢あふれる小野の里」においては、前年に引き続き“地域づくりと人づくり”、そして“3つの部の取組み”において事業を実施してきた。

① 地域づくりと人づくり

人材育成を進めていくために、研修会の参加や先進地視察に積極的に取り組むこととしている。以前より継続して参加している「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」に、運営委員及び地区振興センターの職員計 9 名が参加した。

このフォーラムは、年々参加者も増加しているようであり、発表者も北海道から沖縄まで全国各地から事例を発表されている。今後も、このフォーラムへ継続して参加し、地区内の事業推進に向けて先進地の事例を参考にしていきたい。

② 各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、以下の項目について主体的に取り組むを行った。

■ 安全・安心なまち

小学校児童の登下校時における見守り活動の実施について協議した。また、高齢者の見守り活動に関連して、「防災・福祉支援者カード」作成について、健康福祉部と合同で協議した。

■ 防災

昨年度は、「飯浦地区の避難マップ」を作成したが、今年度は地区民に対して防災意識を高めるための啓発活動を強化することを目的として、各自治会の要望を踏まえ地区内全域を対象に、ゴミステーションや集会所等人目につきやすい場所（22箇所）に「屋外掲示板」を設置した。



■ 定住促進

“若者向けイベントの実施”について、前年度に引き続き取組みを行った。昨年の活動の中で「しゃべり場」と名付けて、若い世代の話し合いの場を設置したが、今年度は“若い人たち”の意見を踏まえ「体験活動」を行うこととした。内容としては、

①夏場に小グループによる「キャンプ体験」を田万川キャンプ場において開催し、当日の食事等の準備について支援した。

②年末に、地区内でお抹茶教室等の活動をされている地域の方を交えて、若者世代との交流として「お抹茶体験会」を開催した。

上記活動について、応援隊員個人としてはスケジュール不都合のため支援への参加が出来なかったが、今後の活動においては出来るだけ参加したいと考えている。

【健康福祉部】

健康福祉部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■ 検診・健診の受診率向上



検診・健診の重要性について、「たより」や「おのつうしん」、「防災端末放送」を通じて、地区民へ呼びかけた。11月に開催された「小野地区ふれあい文化祭」において、パネルを使用して検診・健診についての記事を展示した。また、「ふるさと祭り」において、ポケットティッシュを配布する等の啓発活動を行った。

■ 個人支援カード作成

この取組みは、防災環境部の活動項目とも関連があり、年度当初から合同により実施に向けての調整会議を重ねてきた。

防災環境部の災害時の支援、健康福祉部の福祉面における支援として、『災害・福祉支援者カード』と名付けて、災害時及び急病時による救助の際の連絡先等の情報を記したカード作成を全戸に依頼することとし、各自治会を通じて配付及び回収をしていただいた。

今後において、このカードを活用する事例が多発することは望ましくないことであるが、定期的な更新等も検討しながら長期にわたり活用できる「カード」にしていきたいと考えている。

■ 移動販売の支援

地区内の最も重要な課題として挙げられているのが、「医療」、「交通」、「買い物」である。当部会の取組みとして、まずは「会を運営する自らが学ぶ」という考え方の基に、実際に組織を立ち上げ移動販売等の活動をされている方を講師に招き、「高齢者の買い物支援を考える」と題しての地域づくり講演会を開催した。当会運営委員をはじめ、地域関係者の方を含めて約30名が参加し活発な意見交換がされ、実のある講演会であった。

【生涯学習産業部】

生涯学習・産業部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 小野探訪ウォーキング



「小野地区のことをもっと知ってもらおう」、ということで始めたウォーキング大会であるが、4回目となる今回は、「喜阿弥焼き」等の歴史に名高い喜阿弥地区を会場にして開催した。

前日まで台風の余波があり天候が心配されたが、当日は絶好のウォーキング日和に恵まれ、地区内外から約130名が参加し、盛大なイベントであった。それぞれの景観ポイントにおいては、地区内ボランティアガイドのみなさんが熱心にガイドされ、また、ゴール後には地元自治会の方より「ぜんざい」が振舞われ、参加者より「ガイドの熱心さ」や「地元の受け入れ態勢」について、大好評であったとの声を多くいただいた。



■ 産直市の実施

この事業については、当初より早期に実現すべき事業として位置付けていたが、出品物提供者や出品物の確保等不安要素が多くある中、まずはスタートしてみようという思いで実施に踏み切った。

名称を「おの産直市」として、この事業で使用する簡易テントやのぼり等の備品について、「まちづくり活動特別補助事業」を活用して購入した。

初回については、喜阿弥地区の集会所広場を会場にして、「小野探訪ウォーキング」終了後の販売開始に設定し、ウォーキングへの参加者の他「産直市」のために来られた地元の方を含め、総勢約150名の来場者で賑わった。

第2回目については、12月に小野地区振興センターにおいて、「休日カフェ」と同時に開催したが、急激な寒波の到来により来場者が約80名であった。

出品物については、地区内の方のご協力により、新米やイモ類・豆類等の



穀物類や、ハウス栽培のトマト・ナス・きゅうり等の野菜、合わせ柿やジャム製品、お餅等の加工製品等多くの産物等を出品していただき、両日とも殆どの品物が完売した。

次年度以降の実施体制について、近隣で実施している団体の視察調査も行いながら内容の充実に向けて検討していきたい。

(2) 活動の成果及び効果

今年度の活動を振り返り、下記の2点が大きな成果として挙げられる。

①「産直市」及び「休日カフェ」を実施できたこと。

②地区内全戸を対象に「災害・福祉支援者カード」を作成したこと。

「産直市」及び「休日カフェ」については、地区内関係者の理解と絶大なる協力により実現できたものである。物事を進めていく上では、まず人間関係を作ることが大事であるということを感じた。

「災害・福祉支援者カード」作成については、詳細事項の検討を行う会議の中で、カード作成手法等について慎重な議論を行った結果、各地区自治会関係者の理解と協力により、地区民に対する周知及び配付・回収等の支援をいただいた。

この「災害・福祉支援者カード」は、高齢化が進む10年～20年後には確実に役立つものになると思う。今回作成した基盤を大切にしながら、定期的に更新が出来るよう検討していきたい。

4. 残された課題と今後の提案

地域自治組織を設立して2年目を迎え、私個人としても前任者から引継ぎをして初年度ということで、しばらくの間戸惑いがあった。

今年度は部の会議を積極的に行うこととして、役員会議は最小限度に開催することを前提として取組んできた。3部会の中で活動が多い部では、8回の部会議を開催した。

各部において、多項目の事業・活動計画が挙げられているが、中々実施に取り付くことができない事業が多々あり、議論が進まない実情もある。今一度原点に立ち返り、各事業計画に対する現状の総括を行うとともに、問題点等を整理する必要がある。今後においては、「できることを少しずつでも取りかかる」ということを基本に、進めていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員となって、やがて1年を迎えようとしている。今年は「産直市」を新たにはじめたこともあり、イベントや会議が重なる繁忙期は気持ちの余裕が持てないときもあった。

一方では各自治会関係者の方との協議の場も多々あり、地域の実情等についていろんな面でアドバイスをいただいた。今後において、地域の方との意思の疎通をさらに大切にしながら、地域の課題解決に向けて取組んでいきたい。

地域魅力化応援隊員 氏名 吉賀 和之

平成30年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

中西地区振興センター

2. 配置年月

平成27年5月

3. 活動の概要

① 活動の内容

● 自治組織設立準備委員会

計4回の会議を開催し、他地区の自治組織の活動状況を聴き、中西らしい自治組織の構築について協議しました。

● まちづくりアンケートの公表

一昨年度実施したアンケートについて、昨年度結果をまとめたものを、地区住民へ公表しました。

● なんでもお助け隊

中西ヘルスポイント制度の一環として、平成27年から本格的に活動を開始しました。主な作業は草刈ですが、その他に庭の手入れや垣根の剪定などの活動を行いました。

● 不法投棄見廻り隊

現在も絶えない不法投棄への啓発のため重点地域のパトロールを行い、啓発・監視体制の強化を図りました。また、小学生が描いた絵を啓発看板として、地区内に設置しました。

● 花いっぱい運動

「花いっぱい運動」では、美しい環境を守って、心温まる人間関係つくるために各自治会へ花木(かぼく)を配布し、各自治会が管理する花壇や、私道沿線に植え付け作業を行っていただきました。

● イノシシ用箱罾貸し出し

近年増加しているイノシシへの対策として、昨年度から箱罾(檻)を5基準備し、地区住民へ貸し出しを行いました。

● 動物駆逐用手帳保安講習会

有害鳥獣駆除対策として、動物駆除用火火使用講習会を開催し、地区住民の方に受講していただきました。

② 活動の成果及び効果

● 自治組織設立準備委員会

全体的に出席率はよく、委員の関心のの高さを感じられます。二条の取り組みを聴くことで、自治組織とは地区への負担というイメージから、地区の未来を話し合う「場」であることを、委員会の中で共有できたと思います。来年度の自治組織の設立に向けて、意識が高まっています。



● まちづくりアンケートの結果公表

一昨年度行ったアンケートの結果について、自治組織の計画の指標にするべく、昨年度アンケート検討委員会及び準備会にて協議を行っていただきました。その結果を地区の皆さんと共有するため、今年度公表しました。



● なんでもお助け隊

活動を開始して約50件の活動を行い、地区の高齢者の方にとって生活支援の一つとなりました。中西ヘルスポイント制度とも連動していることにより、相乗効果も期待できます。昨年から引き続き依頼してくださる方、また新たに依頼をしてくださる方も増え、この活動が地区に浸透しています。



● 不法投棄見廻り隊

不法投棄の多い個所を黄色のジャケットを着て見廻りすることにより、ゴミを拾うだけでなく、行き交う人の環境美化への意識向上や啓発になっています。また参加される方も意欲があり、パトロール以外でも見廻り活動をされています。今年度は、小学生の児童が描いた絵を看板として設置し、さらなる啓発を行いました。



- 花いっぱい運動

自治会ごとに花木を植栽していただき、美しいまちづくりにつながりました。虫追地区では、地区の方がよく通られる道路の沿線に色とりどりの花が植えられ、地域の景観向上につながっています。



- イノシシ用箱罾貸し出し

イノシシ対策用の箱罾（檻）の貸し出しを開始して2年目になりました。2月現在、すべての檻が貸し出し中となっており、地区の方に有効活用されています。



- 動物駆逐用手帳保安講習会

動物駆除用火火を使用できる方は区内で25名を超えています。今年度も、資格を新しく取りたいという方が増えています。近年サル被害が増加していることで、興味を持つ方が増えている結果だと思われます。



4. 残された課題と今後の提案

① 自治組織設立準備委員会

アンケート結果を地区住民に公表し、委員だけでなく地区の皆さんとも地区の課題などを共有することができました。それを踏まえて地域の皆さんが思う地域の未来像を形にした計画の策定を行い、来年度の組織設立につなげていければと思います。

また、今後の活動の実行部隊として、地区で活動されている団体・企業の皆さんとも連携を図っていきたいと思います。

② 不法投棄見廻り隊

見廻り隊の活動が活発に行われている一方、区内の不法投棄は完全になくなったわけではありません。一部の心無い方によって悪質な不法投棄も行われています。このことから隊員の方からは、監視カメラの調査の徹底や警察との連携も視野に入れたほうがよいのではという意見が出ました。この意見を踏まえて、今後の活動を支援していきたいと思います。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員になって4年となり、この仕事にやりがいを持って取り組んできました。この仕事が続けられてきたのは、ひとえに地区の皆さんの支えがあったからだと思っています。

今年度、ほかの地区の自治組織が立ち上がっていくなかで、中西地区での自治組織とはどのような形がよいのか、地区の皆さんと議論してきました。そのなかで、「組織を作ることによって新しいことをしなければいけない」、「自分たちの負担が増えるのではないか」という意見がでていました。しかし、自治組織とは中西地区の未来を考え話し合う「場」であることを、委員の皆さんに訴えかけてきました。今行っている様々な活動を今後も続けていけることこそが、中西地区の未来を支えていく基盤になると考えています。

私ごとですが、昨年からは中西地区の住民となりました。来年度の自治組織の立ち上げに向けて、一地区民として皆さんと歩んでいきたいと思っています。

東仙道地区

地域魅力化応援隊員 氏名 青戸 美奈子

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

東仙道地区振興センター

2. 配置年月

平成 2 8 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・ 東仙道ちいき協議会全体会議
- ・ 東仙道お助け隊の活動（草刈り、お買い物バスツアー）
- ・ ふるさとカレンダーの作成
- ・ 東仙道寺子屋の運営

②活動の成果及び効果

- ・ 東仙道ちいき協議会会議

東仙道ちいき協議会設立に向けての東仙道地区地域自治組織設立準備委員会全体会議を経て、4月21日に東仙道地区地域自治組織「東仙道ちいき協議会」の設立総会を行い、無事設立となった。

設立後、全体会議が4回、その他に各部会（互助部会・地域活性化部会・福祉健康部会の3部会）での会議を行った。また、今年度、東仙道ちいき協議会が主体となり行うことになった東仙道地区グラウンド・ゴルフ大会、四つ山歴史ウォーキング、東仙道地区運動会、東仙道地区文化祭実行委員会会議も行い、それぞれ事業の運営も行った。



・東仙道お助け隊の活動

今年度は基本である草刈り依頼9件の他に、木の伐採や物置の片づけ、大きなゴミ出し、墓掃除等、草刈り以外の依頼が6件と幅広い要望があり、のべ24人の隊員により出来る範囲で作業にあたった。

また、キヌヤさんの協力を得て行っている「お買い物バスツアー」も、利用者にとっては月に一度の楽しみとなっているようであるが、東仙道地区振興センター近隣の住民の利用が主であり、もっと交通手段に関して課題を抱えているであろう方への周知や参加の呼びかけをしていきたい。



・ふるさとカレンダーの作成

今年度は「東仙道の寺院と神社」をテーマとし、地域活性化部会が写真を選定し、カレンダーを作成した。

出来上がったカレンダーは、広報4月号と一緒に折り込み、全戸配布する予定である。例年多くの方から「地区外に住む親戚や友人にあげたい」との声もいただくので、今回のカレンダーも地区内外へふるさとの魅力を発信するとともに、様々な世代間で話をするきっかけになればと思う。



- ・東仙道寺子屋の運営

小学校PTAの方からの発案で、放課後に小学校の空き教室を利用し、地域の方に見守っていただきながら宿題を済ませて帰るという寺子屋事業を7月より開始した。募集に応じた見守りボランティア18名が交替で見守りにあたっている。

また、「まちづくり活動特別活動補助金」で、活動をしている小学校の空き教室にエアコンとパーテーションを設置した。

基本的には放課後の宿題見守りだが、長期休暇中には公民館で宿題をし、昼食を調理して食べるなどの活動も行った。また、子ども会連合会との共同事業として、東仙道地区産いちごを使ったかき氷の商品開発をし、仙道夜市で販売した。

今後の課題として、見守りボランティアの増員と、寺子屋事業の広がりについて協議していきたい。



4. 残された課題と今後の提案

- ・東仙道ちいき協議会会議

今年度は全体会の他に部会ごとの会議を行ったが、やはり情報の共有と各委員間の連携は欠かせないものなので、次年度は全体会議の回数を増やしたい。

設立後、公民館から引き継いだ事業の運営については、公民館運営委員の協力も仰ぎ、協働して進めたのでスムーズに運営できたが、多くの課題が残され、今後東仙道ちいき協議会全体で協議をしていく必要がある。

- ・東仙道お助け隊の活動

草刈りについては繁忙期が限定されているので、隊員の負担が大きい。もう少し負担を分散させられるよう、引き続き隊員の確保に力を入れたい。

また、今年度は草刈り以外の相談も多く寄せられたことから、女性の隊員も増やし、草取りや墓掃除といった依頼に対応できる体制を整えたい。

・ふるさとカレンダーの作成

今年度は地域活性化部会が担当したので、写真の選定を部会員だけで行った。来年度はカレンダーのテーマ募集から写真募集、写真の投票といった場面に、もっと住民を巻き込んだ活動にしていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度の初めには目標であった地域自治組織の設立という大仕事があったが、設立後が本当のスタートであり、目標はまだまだ先にあるのだということに改めて強く感じた1年であった。

何事も手さぐりで模索しながらとなったが、会長をはじめ、東仙道ちいき協議会委員はもちろん、公民館職員や公民館運営委員、そして地域住民の皆さまにたくさん助けていただき、次年度に向けての良い経験となった。

市の方針が公民館の直営維持となったため、東仙道ちいき協議会でも当初の予定を修正しなければいけない部分も出てきたので、柔軟に対応しつつ、来年度は今までに得た知識や経験を活かして新規事業も展開していきたい。

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

都茂地区振興センター

2. 配置年月

平成 28 年 4 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

(1)都茂地区若者の会「もてつも」活動支援

これからの地域活動には若者の参加が不可欠であり、これまで各種活動を通して若者との連携を図ってきました。

今年度、都茂地区の 40 代以下の若者を中心とした若者が「寂しくなった地域を盛り上げていこう」と、立ち上げた「もてつも」の活動を支援しました。

「もてつも」とは、「もてなし」と「つも」を繋げた造語で、つもに来られた人に都茂地区の若者ならではのもてなしをしようと言う思いが込められています。

今年度「もてつも」は次のような活動をしました。

○秋祭り仁輪加参加

人口減少、高齢化の影響を 1 番に受けているのが地域行事です。中でも深刻なのが秋祭りで、都茂地区の神社では秋祭りの仁輪加が消滅したり、継続が困難になったりしています。これを盛り上げて地域を元気にしようと都茂祭り仁輪加に参加しました。

「もてつも」では来年度以降も各地区の秋祭りに参加することとしています。

○地域状況勉強会

地域の状況を把握しようと、2 か月ごとに 5 つの自治会に出向き自治会長との懇談会、意見交換会を行いました。来年度は残りの自治会を回り地域の状況を把握することにしています。

○都茂地区文化祭参加

都茂地区の最大のイベントである都茂地区文化祭では、アトラクション出演やフイナーレに餅まきを行い文化祭を盛り上げました。

若者の活動は地域活性化の大きな力です。今後も地域の若者と連携し、次代を担う後継者の育成につなげていきたいと思えます。

(2)都茂公民館だより美都の方言紹介

都茂公民館だより平成 28 年 5 月号より、美都の方言紹介コーナーを開設し美都の方言を紹介しています。

地域にはその土地独自の言葉があり、独自の文化・風習を育んできた。明治時代以降日本政府は中央集権を進めるため学校教育などの中で共通語を押し進め、現在ではテレビ、ラジオの影響などにより、標準語がほぼ全国に浸透し、方言は忘れ去られようとしています。そうした中、各地では積極的に方言を守る動きが起こっており、保存会も作られています。美都地域の方言を紹介することにより、自分たちの住んでいる地域の良さを再認識するとともに、郷土への愛着の心を育みます。

(3) 都茂地区連合自治会輸送活動運営支援

地域自治組織設立後の主要な活動と位置付けている自治会輸送活動の受付、配車調整、資料整理、会議運営等を行いました。

今年で5年目となる都茂地区連合自治会輸送活動は、地域の高齢者等の外出手段として無くてはならない活動となっています。活動に参加するボランティア運転手が高齢化等により減少しており、運転手の確保が課題でしたが、今年度新たに6人の参加が得られ、運転業務の負担軽減が図られました。

都茂地区自治会輸送活動利用実績

年	日数	運行日数	運行回数	稼働率	利用人数	1日当たり利用者数
H26	248日	199日	549回	80.2%	606人	3.0人
H27	245日	208日	666回	84.9%	765人	3.7人
H28	241日	203日	657回	84.2%	738人	3.6人
H29	244日	206日	647回	84.4%	749人	3.6人
H30	186日	115日	360回	61.8%	396人	3.4人

(H30.12月末現在)

② 活動の成果及び効果

今年度、都茂地区の40代以下の若者が若者の会「もてつも」を結成し地域を盛り上げようと活動を始めるなど、新しい動きが芽吹きました。今年度、「もてつも」の立ち上げや活動を支援してきたことにより、まちづくりへの意識高揚に繋がっていると感じています。今後も彼らの活動を支援していきます。

4. 残された課題と今後の提案

まちづくりプランおよび活動計画等の早期決定、住民説明による住民周知、活動の企画運営に参加する会員(運営委員)の募集等、地域自治組織の設立に向け取り組んでいきます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

若者の力は地域活性化の大きな糧です。

今年度地域自治組織の設立は成りませんでした。地域を盛り上げようと結成された「もてつも」と連携が取れたことは、地域自治組織の充実が図られると思っております。今後も「もてつも」の活動がさらに充実するよう、情報提供や活動支援を行っていきます。

二川地区

地域魅力化応援隊員 氏名 小原 静伍

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

二川地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・ 地域自治組織「ぬくもりの里二川」の事務局
運営委員会及び役員会の会議設定・調整・資料作成
地域課題の調査・研究等の支援
- ・ 地域魅力化事業の支援
【住む人が住みやすい地域にしていく】
【美都温泉と連携した賑わいを創出する】
【小学校跡施設の有効利用につなげる】
【地区の特産品を創出する】
以上 4 部会で行われる事業の事務局



②活動の成果及び効果

- ・ 会議
総会 1 回
役員会 4 回 (予定含む)
運営委員会 3 回 (予定含む)
部会 16 回
特設委員会 (交流施設について協議：役員＋学校部会で構成) 3 回
広報 4 回 (予定含む)

①	4月8日	定例総会	⑧	6月13日	温泉部会
	会議内容	予算・事業の承認		会議内容	事業の調整
②	4月13日	温泉部会	⑨	6月19日	学校部会
	会議内容	事業の調整		会議内容	交流拠点の方向性協議
③	4月27日	学校部会	⑩	6月29日	役員会
	会議内容	事業の調整		会議内容	交流拠点の方向性協議
④	5月9日	特産部会	⑪	7月18日	運営委員会
	会議内容	事業の調整		会議内容	事業の調整
⑤	5月16日	住みやすくする部会	⑫	8月1日	学校部会
	会議内容	事業の調整		会議内容	事業の調整
⑥	5月17日	学校部会	⑬	11月19日	役員会
	会議内容	交流拠点の方向性協議		会議内容	事業の調整
⑦	5月30日	学校部会	⑭	12月6日	運営委員会
	会議内容	交流拠点の方向性協議		会議内容	事業の調整

⑮	1月2日	特設委員会	⑳	2月	住みやすくする部会
	会議内容	事業の調整		会議内容	来年度事業について
⑯	1月8日	特産部会	㉑	2月	温泉部会
	会議内容	事業の調整		会議内容	来年度事業について
⑰	1月11日	温泉部会	㉒	2月	特産部会
	会議内容	事業の調整		会議内容	来年度事業について
⑱	1月16日	特設委員会	㉓	3月	学校部会
	会議内容	交流拠点の方向性協議		会議内容	来年度事業について
㉑	1月21日	住みやすくする部会	㉔	3月	役員会
	会議内容	事業の調整		会議内容	総会に向けた調整
㉒	1月28日	特設委員会	㉕	3月	運営委員会
	会議内容	交流拠点の方向性協議		会議内容	総会に向けた調整
㉓	2月	役員会			
	会議内容	来年度事業について			

・事業

【住む人が住みやすい地域にしていく】事業

住民同士で助け合い、住みやすくするための生活支援と生活不安の解消を考えています。

- ・自治会輸送と買い物バスツアーを組み合わせた買い物対策
- ・救急車の大型化による進入困難カ所の洗い出しと分遣所との調整



【美都温泉と連携した賑わいを創出する】事業

「地元の人で美都温泉を盛り上げよう！」。

- ・河川敷の公園で秋のイベント「せせらぎの夕べ」の開催
- ・毎月第3日曜日に温泉モーニングを開催



【小学校跡施設の有効利用につなげる】事業

地域内外の人が集まって、これからの交流拠点を小学校跡地に集約したい。実現に向けて、地域でできることを考えています。

- ・体験事業
- ・周辺美化
- ・交流拠点づくりに向けた取組



【地区の特産品を創出する】事業

高齢者が培ってきた生活の知恵。次世代につなげるために、動画に残すことにしました。数年後に懐かしい映像として。また、動画を見て興味を持つ人にも期待しています。

- ・「焼き米作り」「こんにやく作り」の記録
- ・石州犬石号の撮影協力



【体験交流に向けた取組】

◇しまね田舎ツーリズム親子体験

～柚子プリン・焼き米・うずめ飯・ピザ作り～
 大きなイベントはたくさんあるけれども、二川を知ってもらい、地域のファンを増やせるようなちょっと濃い交流ができないだろうか…今できることで自分たちでできる一歩を始めてみました。浜田など地域外の人と郷土料理を作り、のんびりとした一日を過ごしました。季節限定、四季折々の二川を感じてもらえる体験をこれから考えていきます。



4月15日	温泉モーニング
4月15日	益田祭りうずめ飯販売
5月3日	温泉まつりピザ販売
5月12日	道の駅田植え体験ピザ作り体験
5月20日	温泉モーニング
6月9日	こんにゃく作り撮影
6月17日	温泉モーニング
6月24日	ロードレース大会うずめ飯販売
7月15日	温泉モーニング
7月20日	都茂・東仙道保育所ピザ作り体験
7月22日	姉妹都市交流ピザ作り体験
8月18日	温泉夏まつりうずめ飯販売
8月19日	温泉モーニング
8月21日	ボランティアホリデーピザ作り体験
9月16日	温泉モーニング
9月22日	せせらぎの夕べ

10月19日	まどころナーサリースクールピザ作り体験
10月21日	温泉モーニング
11月4日	いわみん焼き米作り等体験（撮影）
11月18日	温泉モーニング
11月25日	農林業文化祭ピザ販売
12月12日	高齢者サロンそば打ち
12月15日	まどころナーサリースクールそば打ち
12月16日	温泉モーニング
1月19日	石州犬研究所撮影
1月20日	温泉モーニング
2月14日	萩光塩学院ピザ作り体験
2月16日	津和野うずめ飯視察
2月17日	温泉モーニング
3月3日	保育連盟影絵展うずめ飯販売
3月17日	温泉モーニング
3月24日	親子体験キャンペーン 柚子プリン体験

4. 残された課題と今後の提案

交流拠点づくりに向けて、運営・実施体制を地域の中で作り上げなければいけない状況。キーマンのみならず、分野ごとのサポート体制を築く必要がある。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

よい意見がたくさん出るような会議の雰囲気を作っていきたい。

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

匹見上地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 5 月

3. 活動の概要

①活動の内容及び効果

- I、地域自治組織設立に向けての活動
- II、鳥獣被害対策について
- III、視察研修

① 活動の内容及び効果

I、地域自治組織設立に向けての活動

昨年度末に、活動計画の作成が終わっていました。今年度は活動計画書以外の設立に必要な事を協議・検討をしてきました。

まず、年度初めの協議は、設立後の組織体制について。組織体制の協議はまず、事務局から3つの組織体制案を図にて提示し、組織体制の大枠を委員の協議によって決めました。その大枠を基に、委員がどの形で住民を巻き込んでいけるかを協議しました。

次に協議したのは、会の名称とスローガンです。スローガンについては各グループの目標（スローガン）は、昨年度のグループ協議の中で決まっていたましたが、組織全体の目標は未定でしたので、会の名称と一緒に協議を行いました。会の名称の協議では、当地区のイメージや目標を入れたいと「紅葉」「緑」「夢」などの文言が入った名称や「過疎返上の町」といった発想豊かなものまで出されました。この時は委員の地区に対する思いを、改めて感じることでできる委員会になりました。委員の協議の結果、会の名称「匹見上 清流の郷」スローガン「自然とともに澄み（住み）続けたい郷づくり」に事務局主導ではなく、委員の協議によって決定できたことは大きな成果の一つだと考えます。

組織体制、名称の後には、設立後の規約についての協議でした。規約についての協議は、事前に事務局が作成した案を配布し、委員会時まで確認したことを委員会当日に意見として述べる形をとり、グループ協議し、グループの意見を纏め、その後全体会にて、委員全員で確認しながら規約を固めていきました。始めから全体会という

方法もあったのですが、委員の人数や意見の出しやすい形を考えると、グループ協議から全体会の方が良いのではないかと考えたからです。結果的にはグループで協議することで意見が纏まり、訂正や確認がやりやすかったと思います。30年度はこの様に設立に必要なことを協議し決定できた年度になりました。

その他にも、月1回の公民館便りと一緒に自治組織設立進捗状況を配布することで、住民周知することができたことも成果の一部だと感じています。周知に関しては委員の方から住民、各種団体の周知・説明用に今まで協議して決まったことの資料作成をしてはどうだろうかの声があがったので、資料を作成し、住民配布を予定しながら設立に進んでいます。



設立準備委員会（全体会）



設立準備委員会（グループ協議）

II、鳥獣対策について

当地区では鳥獣被害が深刻化しており、今年度も継続事業である、動物用駆除用煙火講習と特定外来防除講習を9月の同日に実施しました。同日に実施する意図としては、2つの講習を別日に設けて実施すると、なかなか人が集まりにくいという現状があるからです。実際、煙火講習受講者に関しては今年度、更新者が31名、新規受講者2名と多くの受講がありました。

準備委員会では、補助金を利用して、継続受講者に煙火花火を配布し、新規受講者には煙火花火とホルダーを配布しています。また、特定外来受講者には箱罾の貸し出しも行いながら地区全体で鳥獣対策に力を入れています。今後も講習会は継続事業として、鳥獣対策を行っていこうと考えています。



動物駆除用煙火保安講習



特定外来駆除講習

Ⅲ、視察研修

視察研修について、今年度は3回行いました。11月上旬の山口県仁保地区、中旬は山口県地福地区のNPO法人「ほほえみの郷 ToiToi」、12月は防災研修として津和野町名賀地区で視察を行いました。①山口県仁保地区では午前中、仁保交流センターで自主組織設立までの経緯と「仁保方式」などの経費の使い方などの話を聞かせて頂きました。午後からは、組織で経営をしている「道の駅 仁保の郷」でお話を聞きました。仁保の郷では地域住民の生活を考えワンストップサービスを実現しており、地区住民が住みやすい環境を作っていました。②NPO法人「ほほえみの郷 ToiToi」では、経営するスーパーや移動販売車「トイトイ号」を見せてもらいながら研修を行いました。移動販売では、住民の要望を聞くのではなく、住民との会話を大切にしており、その会話で住民との信頼関係ができ、売上に繋がっている様でした。仁保地区もToiToiも形は違っていても活動は住民主体であり、そこに地区団体などが関わっていくのは地域自治組織の本質だと改めて感じることでできる研修になりました。

また、昨年度同様に今年度も防災研修を行い、今年度は平成25年の豪雨で被災された津和野町名賀地区でお話を聞くことができました。まずは避難所になった津和野公民館で避難所生活での様子や避難所生活で工夫した点などを教えていただきました。そのあと実際に被害にあった現場を見せてもらいました。現在は完全復旧ではありませんが、一部復旧も進み、災害時前の形を少しずつ取戻していましたが、災害時の写真と比べると、まだまだ完全復旧には時間が掛かり、被害の膨大さをとても感じました。防災研修を通して、当日頂いた資料の中に高校生が書いた文章で、誰かがこの事を次世代に伝えられる自分でありたいとありました。当地区でも過去に自然災害がありましたが、少しずつ災害についての意識が薄くなってきています。過去に、その現実があったことを若い世代が聞き、次の世代に伝えていきながら、いつ起こるか分からない自然災害に備えて、今できる活動を進めていくことの重要性を感じることでできる研修になりました。



山口県仁保地区（仁保自治会）



山口県仁保地区（道の駅 仁保の郷）



ほほえみの郷（トイトイ号）



防災研修（津和野町名賀地区）

4.残された課題と今後の提案

設立準備委員会を立ち上げて5年が経ち、設立まであと一步のところまでとなり、住民にも少しずつではありますが、自治組織が浸透してきました。しかしながら、まだまだ住民への周知が十分とはいえない状況が課題の1つとして挙げられます。その中で、昨年度同様、毎月公民館便りと一緒に自治組織進捗状況を発行し住民周知を図っています。また、今年度は、今まで協議して決まったものを紙ベースに纏め、地域説明用として資料を作成しました。

この資料の全戸配布を予定し、周知を図かりながら、設立後は住民や各種団体が活動に参加してくれる事を目指したいと思います。

鳥獣対策については、現在、煙火講習等で対策をしていますが、この事業を継続しながら、今後は自治会間の連携、猟友会との共有をとりながら、対策を考えていくことが重要になってくると考えています。

5.地域魅力化応援隊員の活動をふりかえって

隊員に配属され5年目が終わろうとしています。当初は恥ずかしながら「地域自治組織」という言葉すら知らず、本当に地域自治組織の設立に至るのか心配でしたが、何十回もの協議を重ね、今年度、設立まであと一步の所までになりました。

これも、当然のことながら、私の力だけでは無理な事でした。準備委員がどんな地区にしていきたいのか、どんな活動をすれば良いのかなど、今年度に限らず協議を重ねた結果だと感じています。

また、今年度は、委員の方から委員会全体で共通認識を持つために設立時期を決めようと声があがりました。これは、委員の皆さんも設立まであと少しという状況の認識になったと考えています。

来年度には、設立が予定され、いよいよ地域自治組織がスタートします。委員の皆さんが協議した活動を少しずつでも実施できる様に、再度気持ちを引き締めて、魅力ある匹見上地区にしていこうと思います。

匹見下地区

地域魅力化応援隊員 氏名 小島 雄二

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配属部署

匹見下地区振興センター

2. 配属年月日

平成 27 年 10 月から

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

①第 3 回「匹見下いいの里づくり協議会」総会（平成 30 年 4 月 22 日）



山崎会長挨拶



総会議事

(2) 各委員会活動

①地域活性化委員会

- ア) 第 3 回 U・I ターン交流会「春を食う会」・・・平成 30 年 4 月（参加者 26 名）
- イ) 高槻市サマーフレンドシップ in 益田 2018・・・平成 30 年 7 月
- ウ) 川崎市ふれあいサマーキャンプ・・・平成 30 年 7 月
- エ) のぼり「おかえりなさい」設置・・・ゴールデンウィーク・盆・正月
- オ) 盆踊り支援（4 地区）・・・平成 30 年 8 月
- エ) 地元有志神楽支援・・・敬老会（9 月）・ふるさと祭り（11 月）で出演
- オ) 匹見下ふるさと祭り・・・平成 30 年 11 月
- カ) 第 4 回「U・I ターンそば打ち交流会」・・・平成 30 年 12 月（参加者 38 名）



U・I ターンそば打ち交流会



匹見下ふるさと祭り

②健康福祉委員会

- ア) いきいき健康 100 歳体操・平成 30 年 4 月～31 年 3 月 (24 回・参加者 230 名)
- イ) グラウンド・ゴルフ・・・平成 30 年 7 月～10 月 (6 回・参加者約 150 名)
- ウ) 「ふれあいの園」ボランティア訪問・・・平成 30 年 4 月～31 年 3 月
- エ) AED・応急救護講習・・・平成 30 年 7 月
- オ) 匹見下地区民運動会・・・平成 30 年 9 月 (約 180 名参加)
- カ) 内谷健康まつり・健康教室・・・平成 30 年 9 月・平成 31 年 2 月
- キ) 各地区サロン活動支援・・・平成 30 年 4 月～
- ク) とちの実交流会・・・平成 30 年 11 月 (匹見小児童 3・4 年生)



いきいき健康 100 歳体操



とちの実交流会

③生活環境委員会

- ア) 「ショップいいの里」日用品販売・・・平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月
- イ) 広瀬地区鳥獣被害集落点検地図化・・・平成 30 年 4 月～
- ウ) 石見交通「バスの日」・・・平成 30 年 9 月・平成 31 年 3 月
- エ) 地区別連絡網・救護体制・・・平成 30 年 4 月～
- オ) 草刈り・収穫支援・・・平成 30 年度 12 件
- カ) 匹見下応急救護・防火訓練・・・平成 30 年 7 月
- キ) 交通利用案内・・・平成 30 年 4 月～
- ク) ごみ出し方講習会・・・平成 30 年 10 月～
- ケ) 鳥獣駆除花火講習会・・・平成 31 年 3 月



鳥獣駆除花火講習会



応急救護訓練

④その他の活動

ア) 「いいの里づくり協議会」だより作成（9号～12号）

イ) 匹見峡温泉活性化プロジェクト・・・月1回会合（通算49回）

(3) 活動の成果及び効果

①自治組織「匹見下地区いいの里づくり協議会」が3年目に入り、地区民の自治組織への関心や認識が深まり、様々な具体的な活動に多くの地区民の参加・協力が得られるようになった。その過程で、成果が徐々に感じられる活動もあったが、後継者不足が急速に進んでおり、新たな課題も顕在化している。

②自治組織の活動拠点「多目的集会施設 いいの里」は、地区内外の人々のサロン活動・祭り・講演会などの交流事業や災害時の避難場所など、地区住民の重要な活動施設として度々活用された。

③自治組織の「地域活性化委員会」「健康福祉員会」「生活環境委員会」の3委員会は、3年度目の事業計画に基づき、それぞれの課題や事業への取り組みを具体的に実施してきた。

ア) 「匹見下ふるさと祭り」や「とちの実交流会」などの交流事業を通じ、匹見下地区をアピールすることができた。

イ) U・Iターン交流会「春を食う会」「そば打ち交流会」を開催することにより、U・Iターンした人達の匹見下への様々な思い・要望を直に話すことができた。さらに、U・Iターン者と地区民との交流を深めることができた。

ウ) 匹見下婦人会が解散し、事業の1つとして「ふれあいの園」ボランティア訪問を引き継ぐことになった。月1度の訪問で入所者とお話し、合唱、ゲームなどを行い、交流を深めた。

エ) 「いきいき健康100歳体操」や「健康教室」などを通じ、自分の健康は自分で管理することの大切さを知り、互いに楽しみながら続けることができた。

オ) 交通不便対策は、匹見下地区の大きな課題だが、「交通機関利用案内」を作成し、公共交通の有効活用に取り組み、また、石見交通「バスの日」を活用している。

カ) 「匹見川魅力発信事業」として、「高槻市サマーフレンドシップ」「川崎市ふれあいサマーキャンプ」を7月に受入れ、匹見下の情報発信と都市部の人たちとの交流を促進できた。

キ) 「空き家調査」及び所有者への空家バンクへの登録打診など、地区の活性化に向け、空き家の有効活用策を実施した。

ク) 6回目の「鳥獣駆除花火講習会」を行い、有資格者は50名を超えている。今年度は更に、わなの活用等の講習を実施した。

ケ) 買い物不便対策として「日用品販売コーナー‘ショップいいの里’」を設け、ゴミ袋やダシの素を取扱い、売り上げも30万円を超えた。

4. 残された課題と今後の提案

1) 残された課題

①3年目に入り、マンネリ化している事業もあり、事業内容の仕訳と絞り込みが必要

②後継者不足が進み、U・Iターン者等若い世代の取り込みが必要

③自治組織の自立促進を目指した収益事業の育成が必要

2) 今後の提案

①自治組織の地区民への浸透と、より参加しやすいイベントや事業内容へ

- ・地区民の自治組織への理解と参加意識は比較的高いと感じるが、広報やさまざまなイベントや事業を通して、なお一層積極的に住民意識を高める必要がある。
- ・交通手段を確保し、より多くの地区民が気軽に参加できる内容にする。

②後継者不足に伴い、事業内容の仕訳と絞り込みの必要性のために

- ・若い世代の地域自治組織への取り込み。
- ・過疎高齢化の進んでいる匹見下地区にあって、多くの地区民が様々な活動を重複して担っている。地区民の負担軽減と効率化のため、事業内容の見直しと並行し、各種組織の統廃合の検討が必要。
- ・自治組織の事業として、やりたい事とできる事との区別をつけ、実行すべきことの優先順位をつける。
- ・匹見峡温泉が休止することとなり、歴史的にも地理的にも密接な関係のある道川、匹見上、匹見下の3地区は、再開に向け協力して取り組む必要がある。

③自治組織の自立促進を目指した収益事業の育成のために

- ・商業施設のない匹見下地区は、交通不便対策と同時に買い物不便対策に取り組む必要がある。地区振興センター内の日用品販売コーナー‘ショップいいの里’は、2年目を迎え、取り扱い品目を増やし、地区民が利用し易いようにする。
- ・また、地域の特産品の販売を‘ショップいいの里’で行い、生きがいつくり、家計の収入増を目指す。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

(1) 匹見下地区に配属後、3年余り経過した。この間、地域自治組織「匹見下いいの里づくり協議会」の活動も3期目を迎え、匹見下多目的集会施設「いいの里」を活動の拠点として、上記のように様々な具体的な活動を続けている。

(2) 私自身、多くの地区の皆様のご知遇を得て、様々な地区の活動に参加できるようになった。あらゆる活動への住民の参加意識が高く、その拠り所となる地区振興センターや公民館の持つ役割の重要性を実感している。また、この地区の98%を占める森林や清らかな河川などの自然が、様々な恵みをこの地にもたらすとともに、風水害や雪害、鳥獣被害など、住民の生活に重い課題としてのしかかっている。多くの活動に参加すればするほど、匹見下地区の課題が明らかになり、過疎高齢化の進展と相まって、対策がますます急務となっているのを感じる。

(3) 更にもう1年この地区で活動することになったが、匹見下地区の現状は、益田市の未来であり、日本の未来でもあるとも考えられる。匹見下地区の住民の関係性の深さや、自然の恩恵を常に実感できる地区性は、自治組織の活動をするうえで大切な財産であり、地区の皆様とともに明日の匹見下地区をつくるため、大いに活用して自治組織3年目に臨みたい。

地域魅力化応援隊員 氏名 高田 純子

平成 30 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

道川地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

■ 地域自治組織活動支援

☆ 組織運営の支援

- ・ 組織を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整、会議、運営の支援、研修会、講演会等の調整、実施。関係機関との連絡、調整等。

☆ まちづくり計画及び活動計画に沿った活動の支援、公民館との協働。

- ・ 賑わいづくり ・ ひとづくり ・ 暮らしの安心づくり

☆ 旧道川小学校跡地利用に伴う庶務

- ・ 跡地利用に関する協議、教育委員会他関係者連絡、調整

☆ 県「小さな拠点づくり」事業

- ・ 現場支援スタッフとの地区調査、集落点検、・・・現状と課題の共有



赤谷川水辺の自然体験広場

②活動の成果及び効果

■ 各種会議、研修会の実施

☆ 役員会、全体会議 企画委員会 ☆ 各種地域活動企画会議



☆ 地域内交流事業 実行委員会



盆踊り大会実行委員会



地区民運動会実行委員会



親睦交流会実行委員会

■ 《賑わいづくり》 関係人口の拡大

☆ 美濃地屋敷、産直市「出合の里」を活動拠点とし、加工販売、イベント、体験活動を実施。加工品や手打ちそば、精進料理など地元食材を主体とし、石見神楽をはじめ、文化や歴史、伝統とを組みあわせ、地域の魅力にふれてもらう機会とした。

美濃地屋敷・・・春祭り(83人) 秋祭り(270人) 精進料理の提供(178人)

出合いの里・・・春祭り(600人) 秋の収穫祭(400人)

出合いの里交流サロンより道食堂・・・週1回営業(26回 445人) 視察含む
田舎体験・・・そば打ち体験(30人) 精進料理の提供(178人) レンコン堀体験(約20人)



美濃地屋敷：春、秋 年2回のイベント、菊花展実施、精進料理の提供等



出合の里：春、秋年2回イベント、交流サロン「より道」秘峡カレーの提供



田舎体験：そば打ち体験、精進料理「美濃地邸食」 レンコン堀体験等

☆里山の景観を活かす活動（豊かな自然と調和する美しい里山の保全、創造）
まちづくり活動特別補助事業「水辺の自然体験広場整備事業」では、春に他出者もいっしょに桜の植樹を実施。以降、川辺の木々の伐採や草刈り、広場の整備をおこない、お散歩マップや看板を作成。他出者とのかかわりを深めていく活動に育てている。

☆ 情報発信 <http://michikawa.info>

ホームページ、フェイスブック等の随時更新を行った。動画に英語神楽のプロモーションビデオをアップし、地域を知ってもらおうきっかけのひとつとなっている。

■ 《ひとづくり》地域の繋がりを強める活動、人材育成
 ☆研修会の実施

H30.10 島根県防災危機対策監 勝野尚直氏
 「災害に備えて」

地域で乗り切る日頃からの防災活動

☆講演会の実施

H30.11 講師：中西公民館 豊田忠作館長
 ～笑って元気に過ごしましょう～

☆地域内交流活動（世代間交流）



H30.11 親睦交流会 地域住民が集まり、多世代が同じテーマで学びあった。講演会を開催し、体を動かした。健康づくりの会の活動をスライドで紹介。また、昔の写真を見ながら記憶を語り合うコーナーを設けた。



8/20 夏の寺子屋



8/13 盆踊り



6/10 地元勉強会

■ 《暮らしの安心づくり》高齢者支援、助けあいのネットワークの構築

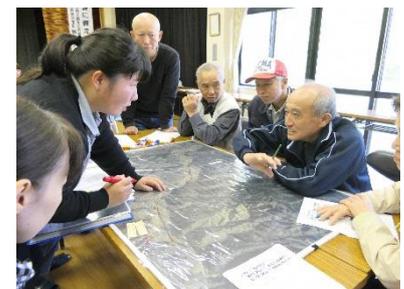
☆見守りや声かけ、買い物バスツアー、配食サービス等、高齢者の平常時の暮らしを支援。冬場、県外の縁者のもとへ行かれる方、期間限定の施設入居者が増えてきた。



買い物バスツアー



配食サービス話し合い



支え合いマップづくり

☆ 非常時の災害に備え、企画委員を3つの班に分け、企画、実践を今年度も継続
 ・緊急情報キット作成班…年1回の登録台帳の確認の呼びかけ、再確認

(登録台帳の変更がある人は、聞き取り等、民生委員とともにいった)

- ・まち歩きマップ作成班…危険、災害箇所、消火の水取り場等のマップ作成にあたって、住民による確認作業を実施。

(消防団、各自治会長、住民による確認作業および、近隣の要支援者の状況把握)

- ・避難訓練、避難所体験…各地で災害がおこる中「まさかの災害！その時、私たちはどう行動するのか！」「また、自分の命をどう守るのか」災害現場から見た地域の日ごろの備えについて講演会を実施した。合わせて、避難訓練を行い、講演会の後は聞き取りを終えたマップをもとに、集落ごとの話し合いを行った。・・・参加者 49 名



情報キット再確認



まち歩きマップ確認



避難訓練

4 残された課題と今後の提案

□ひとづくり～ふれあい活動～

少子高齢化、人口減少の影響による住民の負担が増加する中、地区民交流事業を見直し、統合、削減について協議を行ったが、これまでの続けてきた行事をやめることは相当の決断が必要のようだ。内容の検討もさることながら、時間はかかっても、ひとつひとつ整理していくことが望ましいと考える。

□暮らしの安心づくり

昨年、実践から得た気づきをもとに、まさかの災害に備えて、各集落で確認作業や話し合いを行った。高齢独居世帯が増える中、ますます、隣近所の助け合いが困難という大きな地域課題がある。集落を超え、地域全体で支えあう仕組みを明確にするとともに、防災活動を継続する中で、状況の変化に柔軟に対応できる仕組みをつくっていく。

□賑わいづくり

働き手が減少していく中で、他出者等地域外の方に「地域の応援団」となってもらえるよう積極的な働きかけをし、関係人口を増やしていく。その為の作を講じていく。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

自治組織を立ち上げて3年。「住み慣れた地域で暮らし続けられる地域」であるための努力は並大抵のことではないけれど、地域の方々の温かいつながりがあってこそ！と実感する毎日です。会議を重ね、実践し、失敗と成功を繰り返す中で、少しずつ、組織が回りはじめたように思います。本当にたくさんの方にご協力いただき、支えていただいていることに感謝いたします。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成26年4月1日

益田市告示第77号

改正 平成27年6月12日告示第150号

平成29年3月13日告示第47号

(趣旨)

第1条 この要綱は、地区振興センター等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(配置)

第2条 市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の地区振興センターに応援隊員を配置することができる。

- (1) 益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成29年益田市告示第46号）の規定による補助金の交付対象となる団体
- (2) 益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成27年益田市告示第11号）第5条第2項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

(任命)

第3条 市長は、公募又は前条各号に規定する団体からの推薦により、地域の実情に精通した者、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者の中から、応援隊員を任命する。

(身分)

第4条 応援隊員の身分は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第172条第3項ただし書及び地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(任期)

第5条 応援隊員の任期は、1年以内とし、再任用を妨げない。

(所掌事務)

第6条 応援隊員は、配置される地区における第2条第1項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

(報告)

第7条 市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成26年4月1日から施行する。

(有効期限)

2 この告示は、平成32年3月31日限り、その効力を失う。

附 則 (平成27年6月12日告示第150号)

この告示は、平成27年6月12日から施行する。

附 則 (平成29年3月13日告示第47号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、平成29年3月13日から施行する。

発 行 平成31年3月

発行元 益田市政策企画局人口拡大課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL 0856-31-0600

FAX 0856-23-7708

E-Mail : jinkokakudai@city.masuda.lg.jp